

資料目次

番号	概要	ページ
1	既存の人文社会科学研究科修士課程を修了した過去3年間の学生のうち、博士課程へ進学した者の進学先詳細	2
2	人文社会科学研究科修士課程在学生向けアンケートの調査票及び回答	3
3	士業で活躍している方向けアンケートの調査票及び回答	18
4	四国圏内の文系又は文理融合の大学院博士後期課程の定員充足状況	34
5	本計画と関連する既設組織の定員充足状況	35
6	直近6年間の社会共創学部の教員採用実績	36
7	博士人材ファクトブックで示されている博士人材のパフォーマンスの高さ	37
8	愛媛県内の企業・団体及び自治体向けアンケートの調査票及び回答	38
9	株式会社大和総研のレポートで示されている社外取締役の需要	61

(資料1) 既存の人文社会科学研究科修士課程を修了した過去3年間の学生のうち、博士課程へ進学した者の進学先詳細

修了年度	専攻	進学先
令和6年度	法文学専攻	他大学大学院【地方(四国外)・国立】
令和5年度	法文学専攻	他大学大学院【地方(四国外)・国立】
令和5年度	産業システム創成専攻	愛媛大学大学院連合農学研究科
令和5年度	産業システム創成専攻	愛媛大学大学院理工学研究科
令和5年度	産業システム創成専攻	他大学大学院【都市部・公立】
令和4年度	法文学専攻	他大学大学院【都市部・国立】
令和4年度	産業システム創成専攻	他大学大学院【都市部・国立】

(資料2) 人文社会科学研究科修士課程在学生向けアンケートの調査票及び回答

愛媛大学大学院 人文社会科学研究科 博士課程の新設構想に関するニーズ調査アンケート

愛媛大学は、人文社会科学分野においてさらに高度な人材を輩出し、地域の知的人材基盤を支えるため、**人文社会科学研究科 博士課程の新設を検討**しています。

(詳細は、次のURLからご参照ください)

<https://kiteisv.office.ehime-u.ac.jp/tinyURL/49241>

このアンケートは、修士課程に在学中のみなさんの率直なご意見をうかがい、構想をより現実的で意義あるものにしていくための参考とさせていただくものです。博士課程に対する関心や進学の意向、期待していることや不安に感じていることなど、自由にお聞かせください。回答はすべて匿名で集計され、指導教員に開示されることはありません。また、回答内容によって不利益を被ることは一切ありません。

みなさんの声が、この構想をより良いかたちで具体化していくうえで重要な手がかりとなります。ご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

(令和7年7月 愛媛大学 人文社会科学研究科 博士後期課程検討ワーキンググループ)

このフォームを送信する際に、お客様が、ご自身のお名前やメールアドレスなどの詳細情報を入力しない限り、その情報が自動的に取得されることはありません。

* 必須

1. あなたが所属している 専攻 / コース を選択してください。(単一選択) *

- ☐ 法学専攻 / 法学コース
- ☐ 法学専攻 / 人文学コース
- ☐ 産業システム創成専攻 / 経済・経営コース
- ☐ 産業システム創成専攻 / 環境・資源マネジメントコース

2. あなたの性別を選択してください。(単一選択) *

- ☐ 男性
- ☐ 女性
- ☐ その他

3. あなたの学年を選択してください。(単一選択) *

- ☐ 1年生
- ☐ 2年生
- ☐ 3年生以上

4. 現時点でのあなたの修了後の進路・希望進路を選択してください。(3つまで選択) *

最大3個のオプションを選択してください。

- ☐ 博士課程進学
- ☐ 民間企業
- ☐ 公務員
- ☐ 中学・高校教員
- ☐ 団体職員
- ☐ NPO、NGOなど
- ☐ 資格職（税理士、公認会計士、司法書士など）
- ☐ 家業を継ぐ
- ☐ 起業
- ☐ 留学
- ☐ 現職を継続する（社会人学生）
- ☐ 現職に復帰する予定（休職中など）
- ☐ その他

5. 博士課程進学について、選択してください。(複数選択可) *

- ☐ 愛媛大学の大学院（博士課程）に進学したい（人文社会科学研究科）
- ☐ 愛媛大学の大学院（博士課程）に進学したい（上記以外）
- ☐ 他大学の大学院（博士課程）に進学したい
- ☐ 魅力があるなら進学したい
- ☐ 今のところ進学の具体的な計画はないが、興味・関心はある
- ☐ 興味・関心はない
- ☐ その他

6. あなたが博士課程に進学することの意義や魅力として重要だと考える点を選んでください。
(進学意向の有無に関わらずお答えください。該当する選択肢をすべて選んでください) *

- ☐ 自分の関心のある研究テーマを深く追求できる
- ☐ 博士の学位（Ph.D.など）を取得できること自体に価値がある
- ☐ 将来、大学・研究機関などで教育・研究職に就きたい
- ☐ 社会や地域の課題に、専門的に関わる力を高められる
- ☐ 海外での仕事や学術活動において博士号が評価されやすい
- ☐ 人的なネットワークを構築できる
- ☐ 修士では得られない高度なスキルや知識が身につく
- ☐ 指導教員や研究環境に魅力を感じる
- ☐ 就職を急がず、もう少し自分のテーマに集中できる
- ☐ 特に思いつかない・まだよくわからない
- ☐ その他

7. 6. について、特に、愛媛大学人文社会科学研究科博士課程に期待することを選択してください。
(進学意向の有無に関わらずお答えください。該当する選択肢をすべて選んでください) *

- ☐ 自分の関心のある研究テーマを深く追究できる
- ☐ 博士の学位 (Ph.D. など) を取得できること自体に価値がある
- ☐ 将来、大学・研究機関などで教育・研究職に就きたい
- ☐ 社会や地域の課題に、専門的に関わる力を高められる
- ☐ 海外での仕事や学術活動において博士号が評価されやすい
- ☐ 人的なネットワークを構築できる
- ☐ 修士では得られない高度なスキルや知識が身につく
- ☐ 指導教員や研究環境に魅力を感じる
- ☐ 就職を急がず、もう少し自分のテーマに集中できる
- ☐ 特に思いつかない・まだよくわからない
- ☐ その他

8. あなたが博士課程への進学に際して障壁になると考える点を選んでください。
(進学意向の有無に関わらずお答えください。該当する選択肢をすべて選んでください) *

- ☐ 学費・生活費など経済的な負担が大きい
- ☐ 将来の就職や進学後のキャリアパスが不透明で不安がある
- ☐ 学位取得までの期間が長く感じる
- ☐ 就職活動との両立が難しい
- ☐ 周囲 (家族・職場) からの理解・支援が得られにくい
- ☐ 進学後に十分な支援 (指導・経済面) が受けられるか不安
- ☐ 研究へのモチベーションや体力を維持できるか不安
- ☐ 自分の研究テーマに合う環境があるかわからない
- ☐ 進学が社会で評価されにくい
- ☐ 博士号を取得する必然性がない
- ☐ 博士課程進学に際して特段障壁があるとは思わない
- ☐ その他

9. 8. について、特に、愛媛大学人文社会科学研究科博士課程で学ぶことを妨げる要因を選択してください。
(進学意向の有無に関わらずお答えください。該当する選択肢をすべて選んでください) *

- ☐ 学費・生活費など経済的な負担が大きい
- ☐ 将来の就職や進学後のキャリアパスが不透明で不安がある
- ☐ 学位取得までの期間が長く感じる
- ☐ 就職活動との両立が難しい
- ☐ 周囲（家族・職場）からの理解・支援が得られにくい
- ☐ 進学後に十分な支援（指導・経済面）が受けられるか不安
- ☐ 研究へのモチベーションや体力を維持できるか不安
- ☐ 自分の研究テーマに合う環境があるかわからない
- ☐ 進学が社会で評価されにくい
- ☐ 博士号を取得する必然性がない
- ☐ 博士課程進学に際して特段障壁があるとは思わない
- ☐ その他

10. あなたが現在学んでいる、または関心を持っている専門分野を教えてください。(複数選択可) *

- ☐ 法学
- ☐ 政治学
- ☐ 経済学
- ☐ 経営学
- ☐ 社会学
- ☐ 教育学
- ☐ 心理学
- ☐ 哲学
- ☐ 思想
- ☐ 芸術
- ☐ 文学
- ☐ 言語学
- ☐ 歴史学
- ☐ 考古学
- ☐ 博物館学
- ☐ 地理学
- ☐ 文化人類学
- ☐ 民俗学
- ☐ その他

11. もし博士課程に進学したら、学びたい専門分野を教えてください。(複数選択可) *

☐ 法学

☐ 政治学

☐ 経済学

☐ 経営学

☐ 社会学

☐ 教育学

☐ 心理学

☐ 哲学

☐ 思想

☐ 芸術

☐ 文学

☐ 言語学

☐ 歴史学

☐ 考古学

☐ 博物館学

☐ 地理学

☐ 文化人類学

☐ 民俗学

☐ その他

12. その他、博士課程への進学について障壁や課題と感じていること等、ご意見があればぜひご教示ください。

回答を入力してください

13. 【博士課程への進学を前向きに検討している方へ】

今後、博士課程の設置構想に関するヒアリングを行うとともに、進学を希望・検討している学生の皆さんと教員が直接相談できる機会を設けたいと考えています。

ご関心のある方は、差し支えない範囲でお名前と都合のよい連絡先（メールアドレスなど）をご記入ください。（任意回答）

※ ご記入いただいた情報は、ヒアリングおよび相談のご案内以外の目的では使用いたしません。

※ 上記アンケート（1.～12.）の回答内容と記名情報は紐づけて扱いません。

回答を入力してください

14. 13. について、ご希望の連絡手段や時間帯等があればご記入ください。

回答を入力してください

送信

高度な専門知・適格な実行力を兼ね備えた文系修士・博士人材育成と 地方定着に資する 人文社会科学研究所博士後期課程の設置



社会的背景

- 急速な少子高齢化や過疎化により、地域における**知的人材基盤の縮小**が課題。
- 「機能的価値」よりも「意味的価値」を重視する社会の変化を受け、付加価値の創造や地方独自の課題解決ができる人文社会科学系の**修士・博士人材**の育成と定着が必要。（海外からの高度専門人材移入も含む）
- 愛媛大学人文社会科学研究所は改組後5年が経ち、実践的研究人材育成の蓄積の基礎ができ、より高度な人材育成の準備が整う。

対象とする入学者

- アカデミアのキャリアを目指す修士課程修了生。
- 地方自治体**等において実践的研究スキルで社会的な課題解決のマネジメントに取り組もうとしている公務員及び社会人。
- 高度専門人材として活躍することを目指し、博士前期課程から博士後期課程まで一貫して研究を行いたいと考える**国費留学生**等。

組織構成

人文社会科学研究所 博士後期課程

人文社会科学専攻

入学定員：5人

学位：博士（学術） 分野：法学関係、文学関係、経済学関係

- 文化及び地域創生**に関わる学内各研究センター等との連携、リソースや施設の活用＞**実践の場**を提供
- 横断型研究指導体制の確立＞コアとなる専門分野を中心としつつ、隣接分野、各研究センター、学外協力機関からなる学位プログラムの構築＞学生の希望に応じ、研究と実践のバランスを柔軟に選択
- 社会人等に対応した遠隔指導体制を構築
- アドバンスドソーシャルイノベーション学環との連携**（博士人材マッチングプラットフォームの活用）

人文社会科学研究所 修士課程（博士前期課程）

法文学専攻

入学定員 12人

修士（法学）、修士（人文学）
（法学関係、文学関係）

法文学部

産業システム創成専攻

入学定員 8人

修士（経済学）、修士（学術）
（経済学関係）

社会共創学部

養成する人材像

- 人文社会科学分野に関して、博士課程に相応しい高度な専門知識だけでなく、汎用的な分析・研究遂行能力を有し、当該分野の**研究発展に寄与する人材**。
- 産学連携・付加価値創造・地方の公共政策立案や社会制度デザイン・地域の文化資源の活用などにおいて、論理的、多角的、学際的な視点から**課題解決を実践**できる人材。
- 地方の特性と国際的な視点を兼ね備えたグローバル人材で、地方の課題解決に必要なデジタル活用やデータ活用に関与し、地方に定着する**高度専門人材**。

活躍の場

- 国公立の研究所の**研究者や、大学教員、管理事務職員、URA**。
- 産業界や地方自治体における、**調査・分析、社会課題解決、地域政策・文化行政**を担う企画担当者。
- 帰国するだけでなく、留学生就職促進プログラムによって高度専門人材として**国内に定着する外国人次**。

ディプロマ・ポリシー 人文社会科学分野において、博士課程に相応しい高度な専門知識と汎用的な分析・研究遂行能力を有する。地方の社会課題を理論的・実証的に分析し実践的・独創的な解決策を提示する専門的研究能力を有する。様々な予測不能な課題解決に向け適格な実行力を発揮できる。

カリキュラム・ポリシー 領域横断的な専門知識を習得し、理論だけでなく実践にも重きを置いたカリキュラムを展開。データ活用や現場における実証能力を涵養する。

アドミッション・ポリシー 修士課程修了相当の専門知識を有し、関連分野を含め自ら課題を発見・探究・解決しようとする意欲及び地域に貢献する意欲を持つこと。

人文社会科学研究科博士後期課程設置の趣旨

地方である愛媛県の地域特性

- ・急速な少子高齢化や過疎化が深刻であり、高度専門人材の減少や都市への流出により、**知的人材基盤の縮小**が喫緊の課題となっている。
- ・「機能的価値」よりも「意味的価値」を重視する価値観の変容、複雑化・多層化する社会課題、地方創生の需要の高まりなどに対応するため、**人文社会科学の視点を取り入れた解決策**が求められる。

愛媛大学の特色

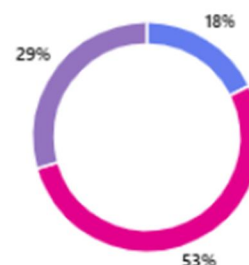
- ・人文社会科学研究科は、修士課程の改組から5年を経て人材育成の知見を蓄積し、多様な専門性を有する教員によって分野横断的な指導ができる体制が整えられてきた。
- ・地域共創研究センター、防災情報研究センター、アジア古代産業考古学研究センター、国際連携推進機構を有し、文化及び地域創生に関わる多様な活動を展開。また、地域協働推進機構を有し、県内全20市町と連携協定を締結。
- ・地域ステークホルダーとの深い関係があり、**地域における実践**ができる土壌がある。
- ・さらに、地方国立総合大学として、学士から博士、文科系から学際領域および理科系までの**網羅的な人材育成が要請**されている。

設置の趣旨

- ・地方に暮らし、そこに現出する課題を解決するという過程において、それぞれに**必要な期間に応じた高等教育へのアクセスを確保**するため、博士課程を新たに設置し、文系分野の体系化を図る。
- ・外国人留学生も含め、**人文社会科学の高度な素養を有する人材を呼び込み、県内への定着に繋げる。**

回答 1. あなたが所属している 専攻 / コース を選択してください。(単一選択)

● 法文学専攻 / 法学コース	3
● 法文学専攻 / 人文学コース	9
● 産業システム創成専攻 / 経済・経営コース	0
● 産業システム創成専攻 / 環境・資源マネジメントコース	5



回答 2. あなたの性別を選択してください。(単一選択)



回答 3. あなたの学年を選択してください。(単一選択)



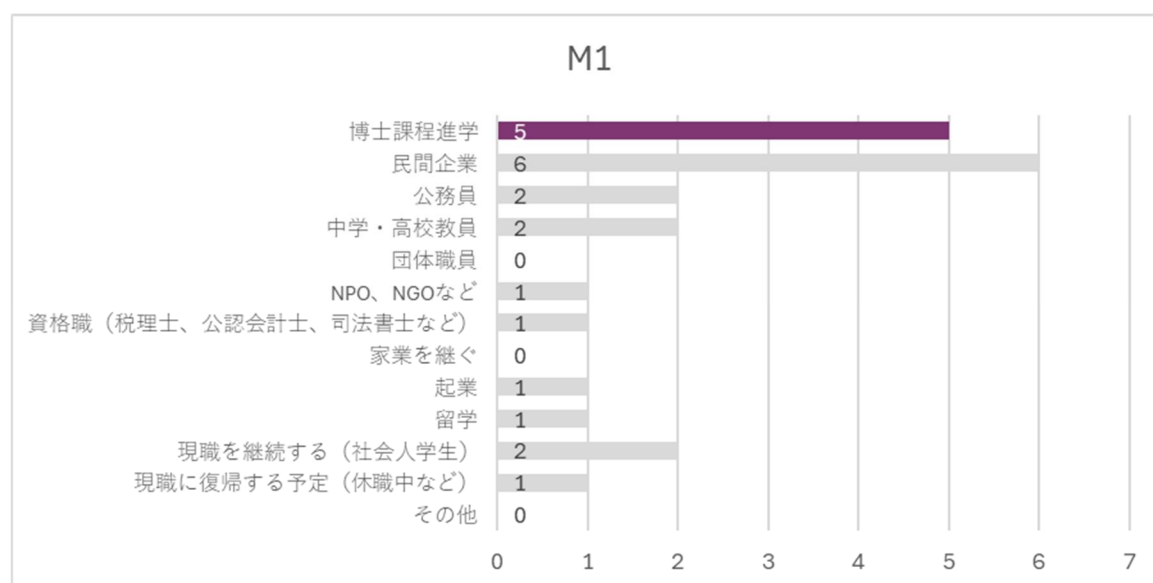
回答 4. 現時点でのあなたの修了後の進路・希望進路を選択してください。(3つまで選択)

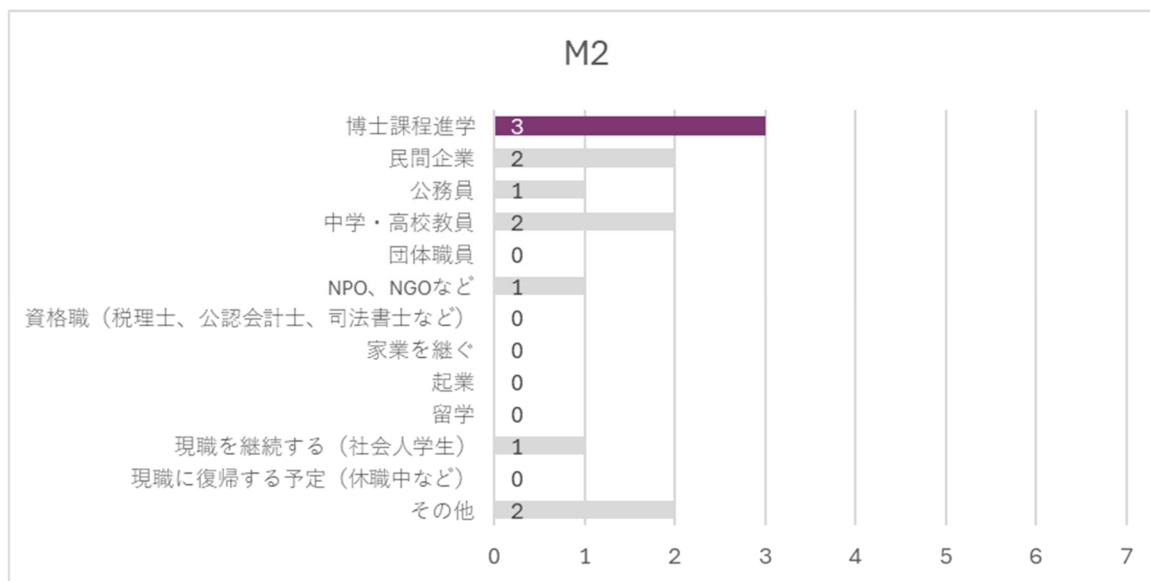
回答者

M1: 10 (男 5・女 5) 名

M2: 7 (男 1・女 5・その他 1) 名

いずれの学年も回答者の半数程度である 3～5 名が博士課程進学を検討している。





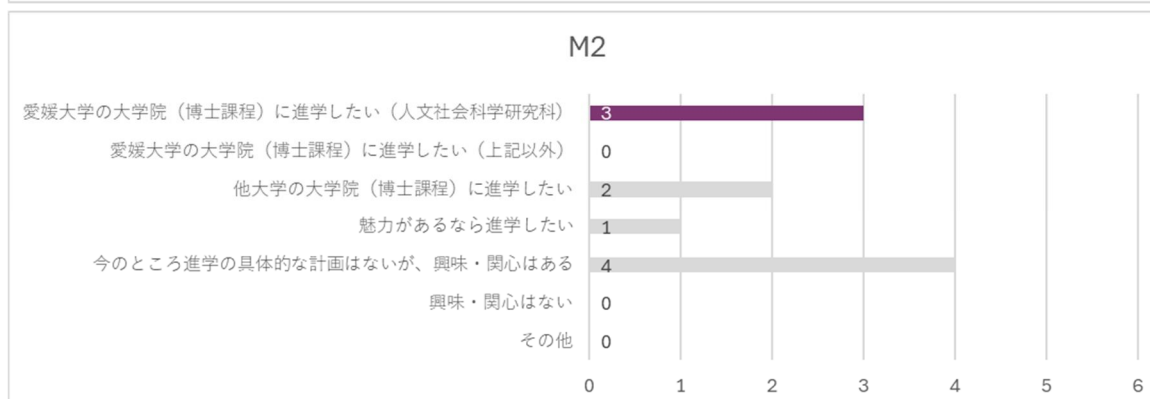
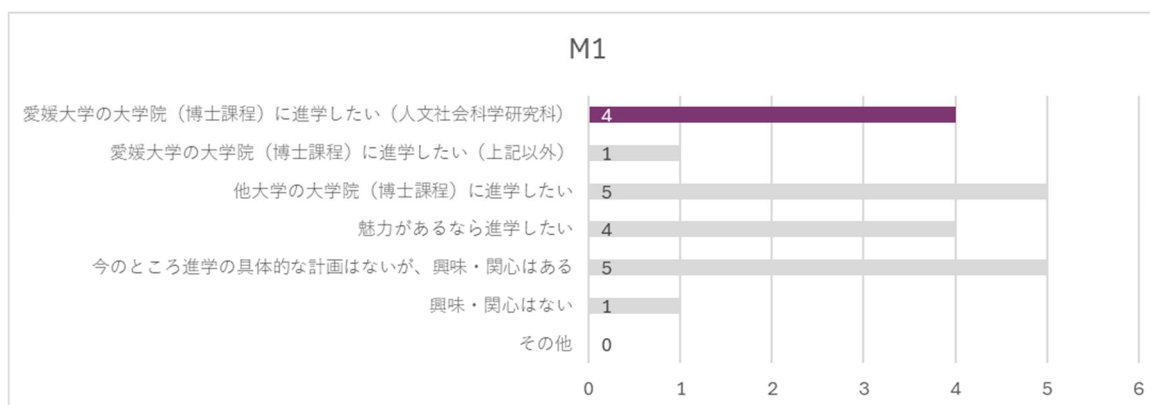
回答 5. 博士課程進学について、選択してください。（複数選択可）

回答者

M1：10（男 5・女 5）名

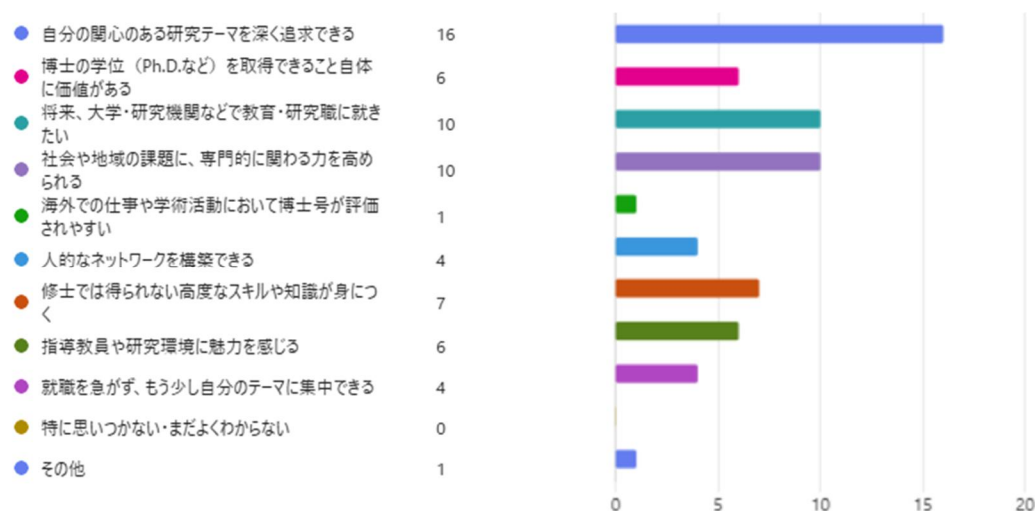
M2：7（男 1・女 5・その他 1）名

博士課程進学のなかでも、人文社会科学研究科に博士後期課程があれば有力な選択肢となっている。



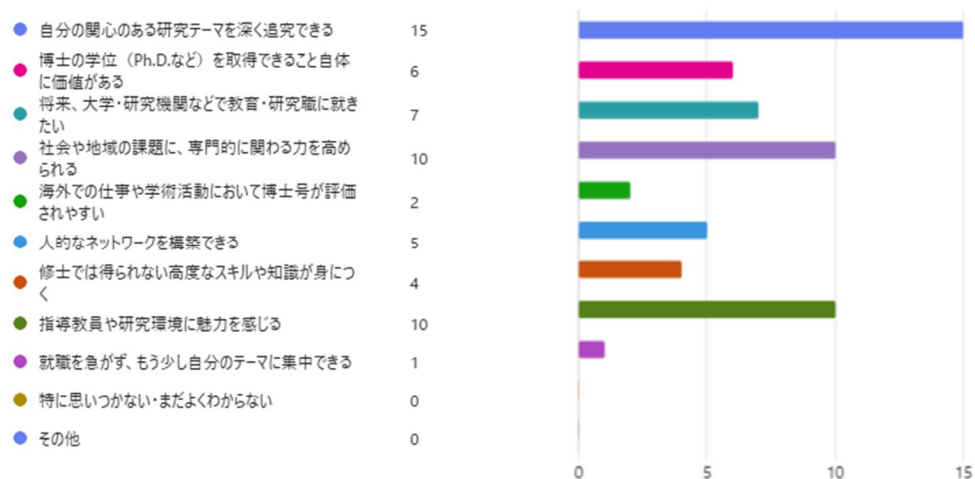
回答 6. あなたが博士課程に進学することの意義や魅力として重要だと考える点を選んでください。

(進学意向の有無に関わらずお答えください。該当する選択肢をすべて選んでください)

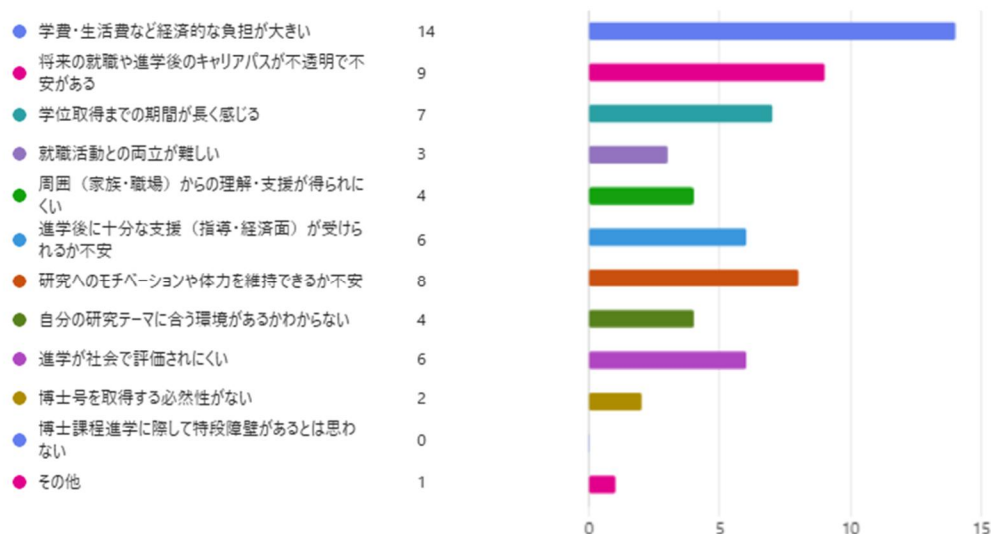


回答 7. 6. について、特に、愛媛大学人文社会科学研究科博士課程に期待することを選択してください。

(進学意向の有無に関わらずお答えください。該当する選択肢をすべて選んでください)

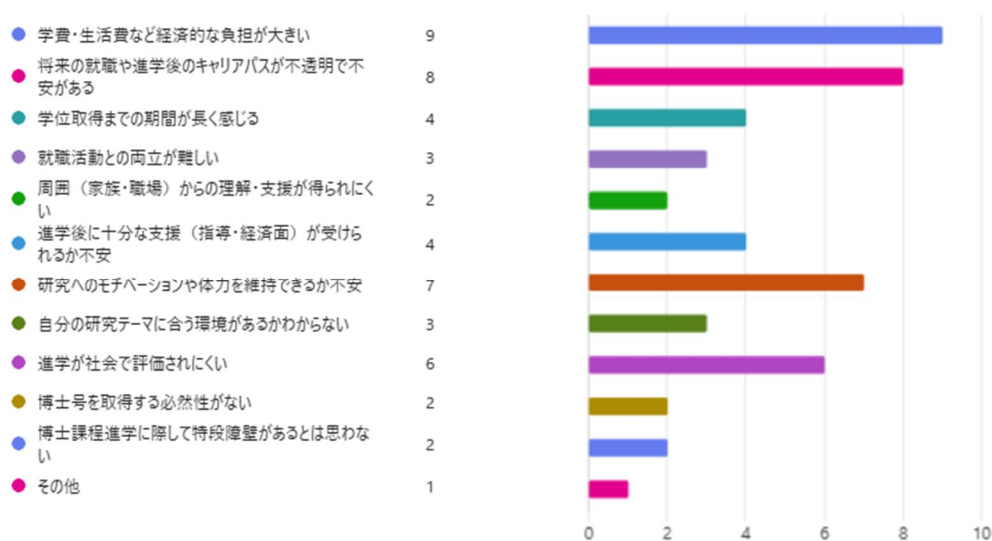


回答 8. あなたが博士課程への進学に際して障壁になると考える点を選んでください。
(進学意向の有無に関わらずお答えください。該当する選択肢をすべて選んでください)

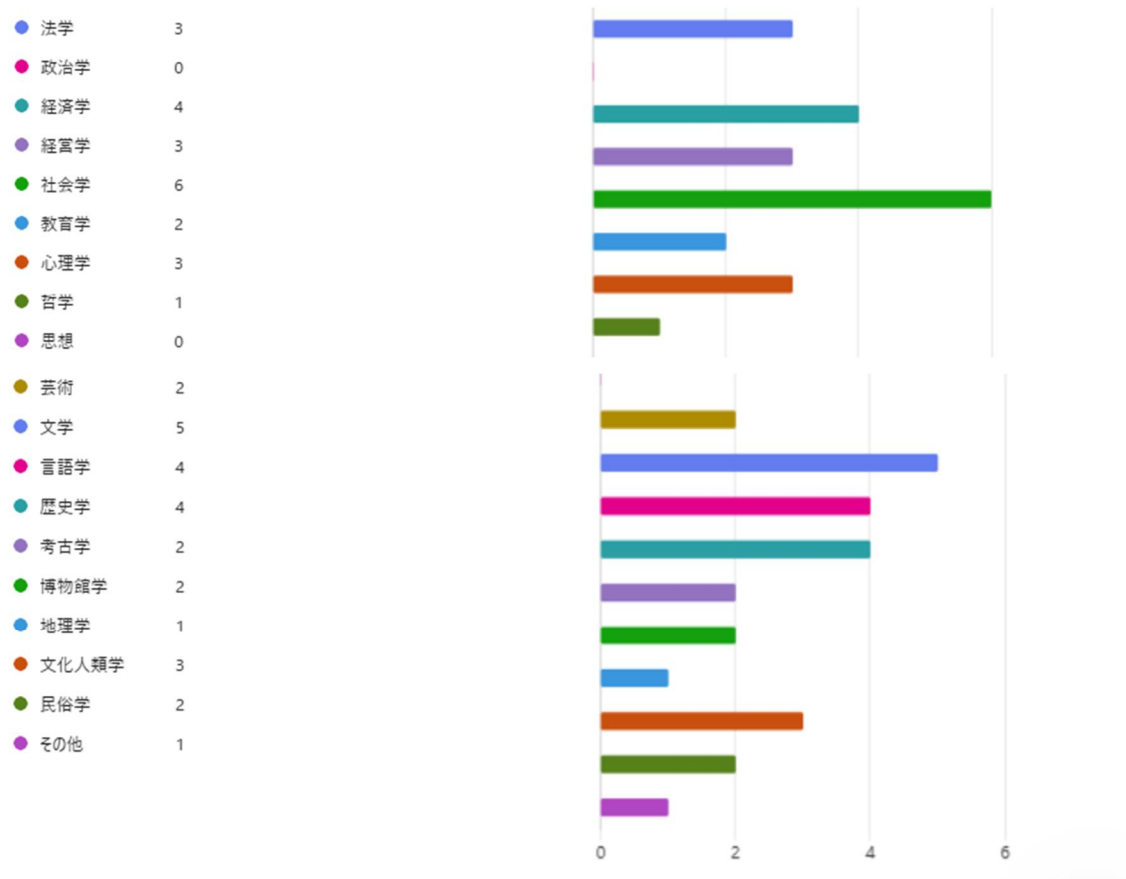


回答 9. 8. について、特に、愛媛大学人文社会科学研究科博士課程で学ぶことを妨げる要因を選択してください。

(進学意向の有無に関わらずお答えください。該当する選択肢をすべて選んでください)

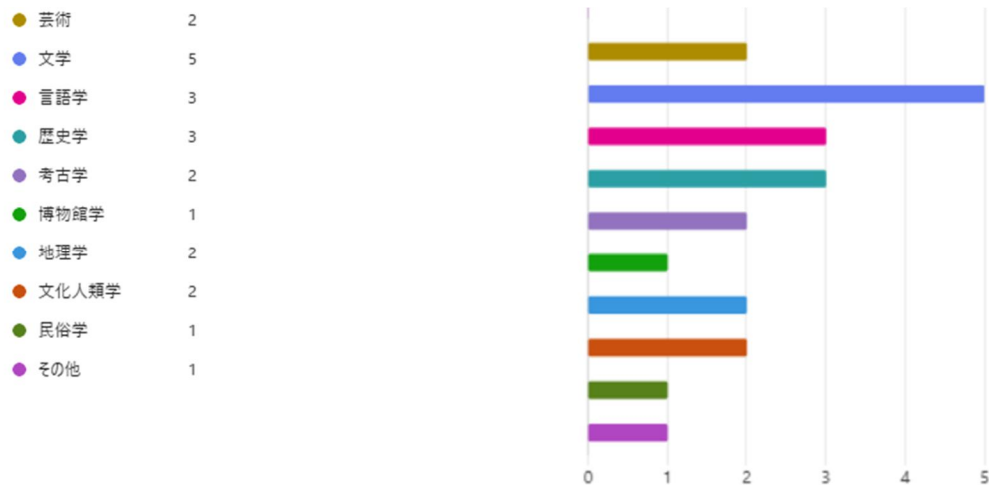


回答 10. あなたが現在学んでいる、または関心を持っている専門分野を教えてください。
(複数選択可)



回答 11. もし博士課程に進学したら、学びたい専門分野を教えてください。(複数選択可)





回答 1 2. その他、博士課程への進学について障壁や課題と感じていること等、ご意見があればぜひご教示ください。

社会に出るのが遅れるため、就職活動や就職後のライフプラン設計に少し不安を感じる。

奨学金を借りて修士課程に進んでいるので、博士課程に進んで尚且つ返済できるキャリアパスがあるかどうか。

①入試方式・試験方式 ②育成計画 ③経済支援

修士課程への進学条件が卒業後に地元で就職することなので、本当は総研大へ進学したいと考えていたが、難しいと感じている。同様に、博士課程への進学は文系学問においては難しいと感じる。

自身の専門ではないが、過去、法科大学院をとじたということを聞いたことがあるが、改めて法学を作って成り立たせられるのか。文学、法学がまざると、専門外のことが多くなるのではないか。

自宅から通えるところでないと難しいが、専門分野を愛媛県で学ぶことができない。

(資料3) 土業で活躍している方向けアンケートの調査票及び回答

愛媛大学大学院 人文社会科学研究科 博士課程の新設構想に関するニーズ調査アンケート

土業に従事されている先生方へ

愛媛大学では現在、人文社会科学分野においてさらに高度な人材を輩出し、地域の知的人材基盤を支えるため、人文社会科学研究科博士課程の新設を検討しています。(詳細は、次の別紙をご参照ください)

この構想を現実的かつ実効性のあるものとして組み立てていくうえで、ご専門を持ち日々研鑽を積まれている皆さまから率直なご意見を伺いたく、アンケートへのご協力をお願いいたします。

このアンケートは、本構想を具体的に検討するための参考資料としてのみ使用し、それ以外の目的には一切用いません。また、回答内容によって貴社・貴団体に不利益が生じるようなことは一切ありませんので、ありのままをお答えください。

なお、本構想は検討中につき変更となる場合があることをご了承ください。

このフォームを送信する際に、お客様が、ご自身のお名前やメールアドレスなどの詳細情報を入力しない限り、その情報が自動的に取得されることはありません。

* 必須

1. 従事されているご職業を選択してください。(複数資格をお持ちの方は、主に従事されているご職業として選択してください) * 

☒ 弁護士

☐ 弁理士

☐ 司法書士

☐ 行政書士

☐ 社会保険労務士

☐ 税理士

☐ 公認会計士

☐ 中小企業診断士

☐ その他

2. 博士課程進学について、選択してください。（複数選択可） *

- ☐ 愛媛大学の大学院（博士課程）に進学したい（人文社会科学研究科）
- ☐ 愛媛大学の大学院（博士課程）に進学したい（上記以外）
- ☐ 他大学の大学院（博士課程）に進学したい
- ☐ 魅力があるなら進学したい
- ☐ 今のところ進学の具体的な計画はないが、興味・関心はある
- ☐ 興味・関心はない
- ☐ その他

3. あなたが博士課程に進学することの意義や魅力として重要だと考える点を選んでください。
（進学意向の有無に関わらずお答えください。該当する選択肢をすべて選んでください） *

- ☐ 自分の関心のある研究テーマを深く追求できる
- ☐ 博士の学位（Ph.D.など）を取得できること自体に価値がある
- ☐ 将来、大学・研究機関などで教育・研究職に就きたい
- ☐ 海外での仕事や学術活動において博士号が評価されやすい
- ☐ 人的なネットワークを構築できる
- ☐ 修士では得られない高度なスキルや知識が身につく
- ☐ 指導教員や研究環境に魅力を感じる
- ☐ 特に思いつかない・まだよくわからない
- ☐ その他

4. 3. について、特に、愛媛大学人文社会科学研究科博士課程に期待することを選択してください。
(進学意向の有無に関わらずお答えください。該当する選択肢をすべて選んでください) * 

- ☐ 自分の関心のある研究テーマを深く追求できる
- ☐ 博士の学位 (Ph.D. など) を取得できること自体に価値がある
- ☐ 将来、大学・研究機関などで教育・研究職に就きたい
- ☐ 海外での仕事や学術活動において博士号が評価されやすい
- ☐ 人的なネットワークを構築できる
- ☐ 修士では得られない高度なスキルや知識が身につく
- ☐ 指導教員や研究環境に魅力を感じる
- ☐ 特に思いつかない・まだよくわからない
- ☐ その他

5. あなたが博士課程への進学に際して障壁になると考える点を選んでください。
(進学意向の有無に関わらずお答えください。該当する選択肢をすべて選んでください) * 

- ☐ 学費・生活費など経済的な負担が大きい
- ☐ 学位取得までの期間が長く感じる
- ☐ 周囲 (家族・職場) からの理解・支援が得られにくい
- ☐ 進学後に十分な支援 (指導・経済面) が受けられるか不安
- ☐ 研究へのモチベーションや体力を維持できるか不安
- ☐ 自分の研究テーマに合う環境があるかわからない
- ☐ 進学が社会で評価されにくい
- ☐ 博士号を取得する必然性がない
- ☐ 博士課程進学に際して特段障壁があるとは思わない
- ☐ その他

6. 5. について、特に、愛媛大学人文社会科学研究科博士課程で学ぶことを妨げる要因を選択してください。

(進学意向の有無に関わらずお答えください。該当する選択肢をすべて選んでください) * 

- ☐ 学費・生活費など経済的な負担が大きい
- ☐ 学位取得までの期間が長く感じる
- ☐ 周囲（家族・職場）からの理解・支援が得られにくい
- ☐ 進学後に十分な支援（指導・経済面）が受けられるか不安
- ☐ 研究へのモチベーションや体力を維持できるか不安
- ☐ 自分の研究テーマに合う環境があるかわからない
- ☐ 進学が社会で評価されにくい
- ☐ 博士号を取得する必然性がない
- ☐ 博士課程進学に際して特段障壁があるとは思わない
- ☐ その他

7. あなたが現在学んでいる、または関心を持っている専門分野を教えてください。(複数選択可)

* 

- ☐ 法学
- ☐ 政治学
- ☐ 経済学
- ☐ 経営学
- ☐ 社会学
- ☐ 教育学
- ☐ 心理学
- ☐ 哲学
- ☐ 思想

- ☐ 芸術
- ☐ 文学
- ☐ 言語学
- ☐ 歴史学
- ☐ 考古学
- ☐ 博物館学
- ☐ 地理学
- ☐ 文化人類学
- ☐ 民俗学
- ☐ その他

8. もし博士課程に進学したら、学びたい専門分野を教えてください。(複数選択可) * ☐

- ☐ 法学
- ☐ 政治学
- ☐ 経済学
- ☐ 経営学
- ☐ 社会学
- ☐ 教育学
- ☐ 心理学
- ☐ 哲学
- ☐ 思想

- ☐ 芸術
- ☐ 文学
- ☐ 言語学
- ☐ 歴史学
- ☐ 考古学
- ☐ 博物館学
- ☐ 地理学
- ☐ 文化人類学
- ☐ 民俗学
- ☐ その他

9. その他、博士課程への進学について障壁や課題と感じていること等、ご意見があればぜひご教示ください。

回答を入力してください

10. 【博士課程への進学を前向きに検討している方へ】

今後、博士課程設置構想に関するご報告やご相談の際に、必要に応じてご連絡させていただく場合があります。

差し支えない方は、お名前と都合のよい連絡先（メールアドレスなど）をご記入ください。（任意回答）

※ ご記入いただいた情報は、本アンケートの目的以外には使用いたしません。

回答を入力してください

高度な専門知・適格な実行力を兼ね備えた文系修士・博士人材育成と 地方定着に資する 人文社会科学研究科博士後期課程の設置

CONFIDENTIAL
(2026.1.29時点の内容のため、変更の可能性があります)

社会的背景

- 急速な人口減少・高齢化により、地域の**知的人材基盤が縮小**する一方、課題は**複雑化・多層化**している。その解決には**多様な分野を統合した総合的なアプローチ**が不可欠である。
- 広い視野で歴史・文化・地域性といった**多様な価値**を理解し、理論・実践的研究を通して新たに**深くかつ融合的に**捉え直して発信する必要がある。
- 解決が容易でない複合的な課題に対し、限定的な**専門性**に加えて**多様な観点**からの知識や理解を結び合わせ、「**意味的価値**」を創出することが求められている。
- 異文化を含む**多様な背景を持つ他者と協働し開かれた視野で共創**できる人材が求められている。

対象とする入学者

- アカデミアのキャリアを目指す修士課程修了生。
- 地方自治体等**において実践的研究スキルで社会的な課題解決のマネジメントに取り組もうとしている者。
- 高度専門人材として活躍することを目指し、博士前期課程から博士後期課程まで一貫して研究を行いたいと考える**国費留学生**等。

組織構成

人文社会科学研究科 博士後期課程

人文社会科学専攻

入学定員：5人

学位：博士（学術） 分野：文学関係・法学関係・経済学関係

横断型研究指導体制の確立

- ▶コアとなる専門分野を中心としつつ、隣接・関連分野からなる**研究手法の横断的教育**を含む学位プログラムの構築
- ▶研究を軸に、学生の志向や関心に応じて、実践的な学びも柔軟に取り入れられる教育設計
- 実践機会の創出と多様な学修環境の提供**
 - ▶文化・地域創生に関わる学内各研究センターとの連携、地域社会や学内外機関との連携を通じて、実践的な活動機会を確保
 - ▶必要に応じて、アドバンストソーシャルマネジメント学環の知見やツールを補完的に活用
 - ▶社会人等に対応した遠隔指導体制を整備し、柔軟な学修環境を提供

人文社会科学研究科 博士前期課程 ← 修士課程

法文学専攻

入学定員 12人
修士（法学）、修士（人文学）
（法学関係、文学関係）

法文学部

産業システム創成専攻

入学定員 8人
修士（経済学）、修士（学術）
（経済学関係）

社会共創学部

養成する人材像

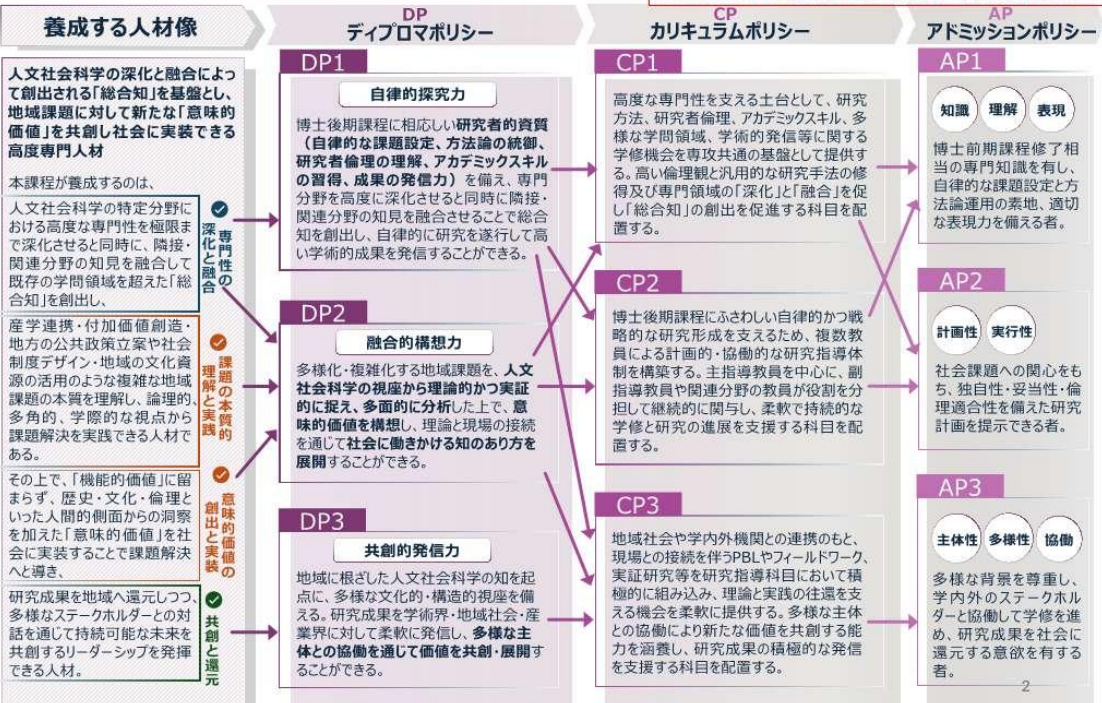
- 人文社会科学の特定分野における高度な専門性を極限まで「**深化**」させると同時に、隣接・関連分野の知見を「**融合**」させることで、**既存の学問領域を超えた「総合知」を創出**できる人材。
- 産学連携・付加価値創造・地方の公共政策立案や社会制度デザイン・地域の文化資源の活用のような複雑な地域課題の本質を理解し、論理的、多角的、学際的な視点から課題解決を実践できる人材。
- 「**意味的価値**」を社会に実装することで課題を解決へと導き、**多様な主体との対話を通して新しい価値を共創し、地域へ還元**できる人材

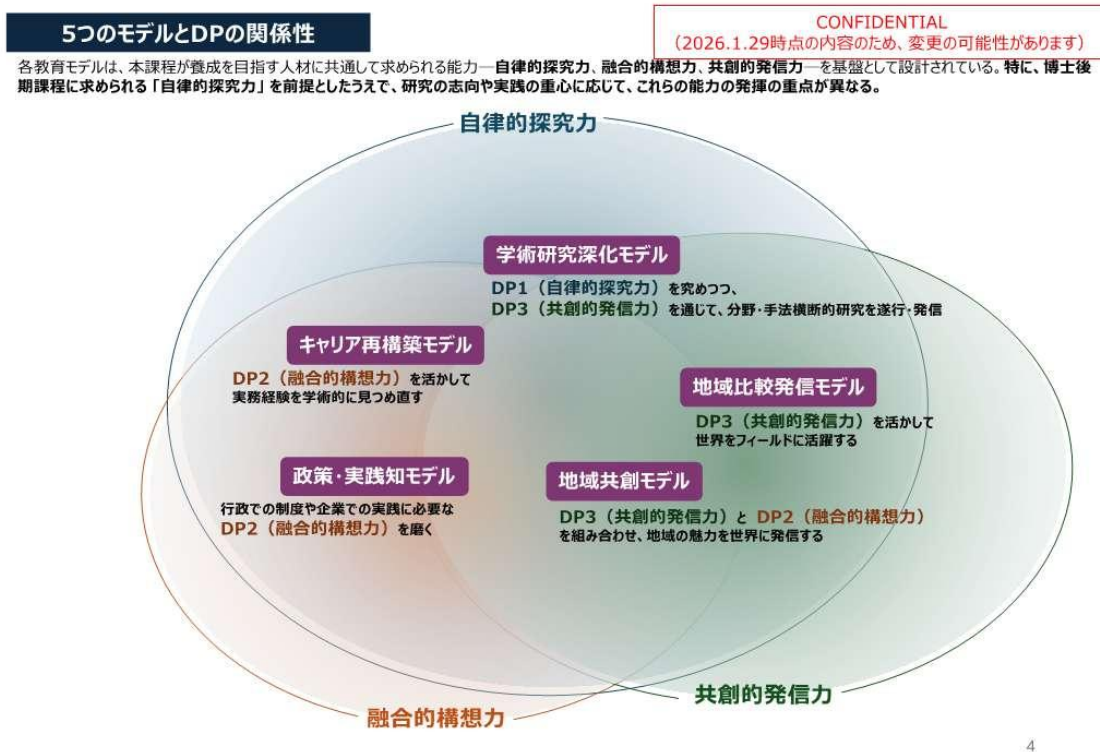
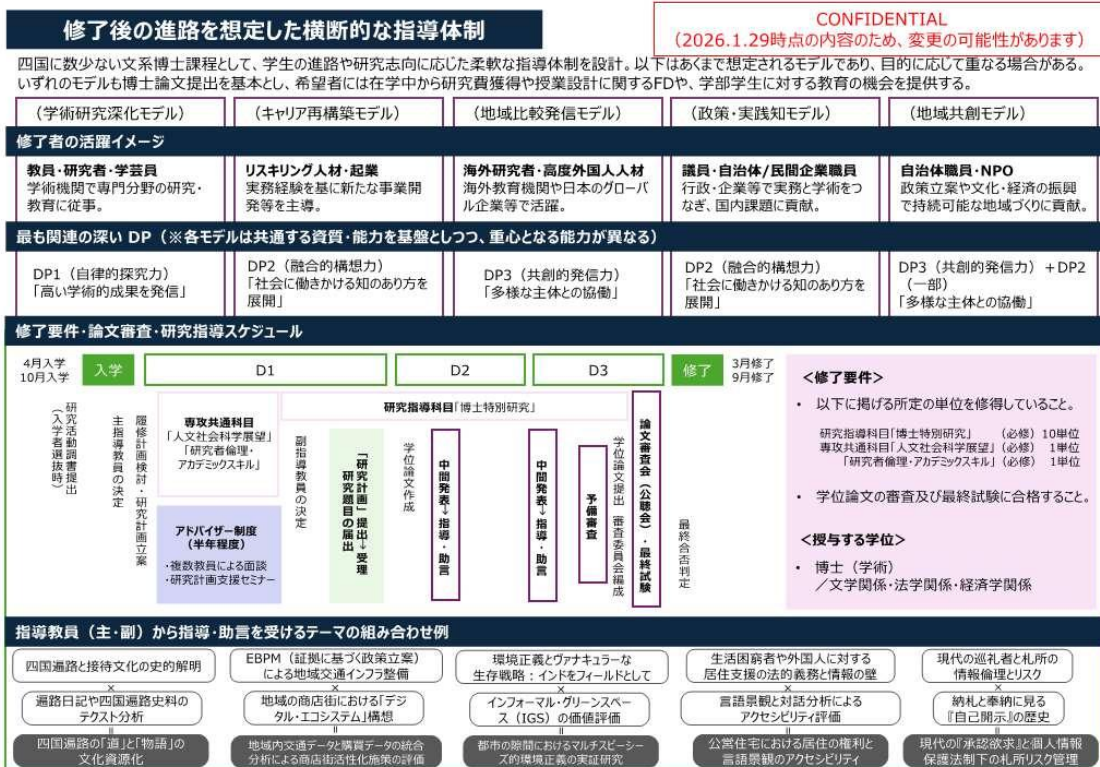
活躍の場

- 大学・研究機関等で、**研究者や教育職**として専門知を深化させ、次世代の知的基盤を担う。（学術研究の深化）
- 自治体・企業・NPO等**で、政策立案や地域振興を主導し、社会課題の解決に実践的に貢献する。（理論と現場の接続）
- 国際共同研究・文化発信分野**で、地域に根ざした知を国際的に展開し、多様なステークホルダーと協働する。（共創的発信）¹

養成する人材像と3つのポリシー

CONFIDENTIAL
(2026.1.29時点の内容のため、変更の可能性があります)





主指導教員となる予定の教員（職位・保有学位・所属）

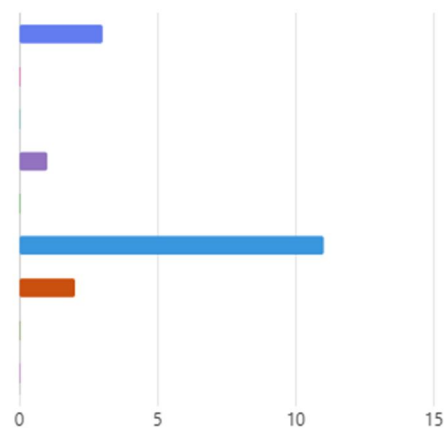
CONFIDENTIAL
（2026.1.29時点の内容のため、変更の可能性があります）

教授	胡 光	文学修士	人文社会科学研究科 法文学専攻（人文学コース）
教授	中根 隆行	博士（文学）	人文社会科学研究科 法文学専攻（人文学コース）
教授	今泉 志奈子	博士（言語文化学）	人文社会科学研究科 法文学専攻（人文学コース）
教授	福井 秀樹	修士（法学）	人文社会科学研究科 法文学専攻（法学コース）
教授	鈴木 静	修士（地域政策）	人文社会科学研究科 法文学専攻（法学コース）
教授	石坂 晋哉	博士（地域研究）	人文社会科学研究科 法文学専攻（法学コース）
教授	岡本 隆	博士（経済学）	人文社会科学研究科 産業システム創成専攻（経済・経営コース）
教授	折戸 洋子	博士（商学）	人文社会科学研究科 産業システム創成専攻（経済・経営コース）
准教授	RUPPRECHT CHRISTOPH DAVID DIETFRIED	Ph. D.	人文社会科学研究科 産業システム創成専攻（環境・資源マネジメントコース）

5

回答1. 従事されているご職業を選択してください。（複数資格をお持ちの方は、主に従事されているご職業として選択してください）

● 弁護士	3
● 弁理士	0
● 司法書士	0
● 行政書士	1
● 社会保険労務士	0
● 税理士	11
● 公認会計士	2
● 中小企業診断士	0
● その他	0



回答 2. 博士課程進学について、選択してください。(複数選択可)

回答者

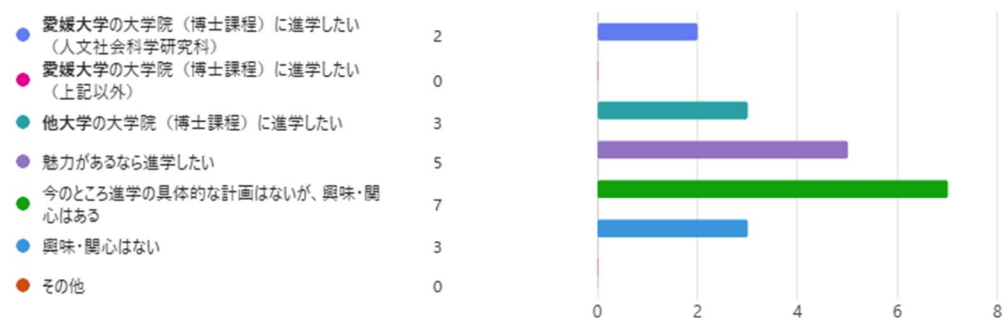
弁護士：3名

行政書士：1名

税理士：11名

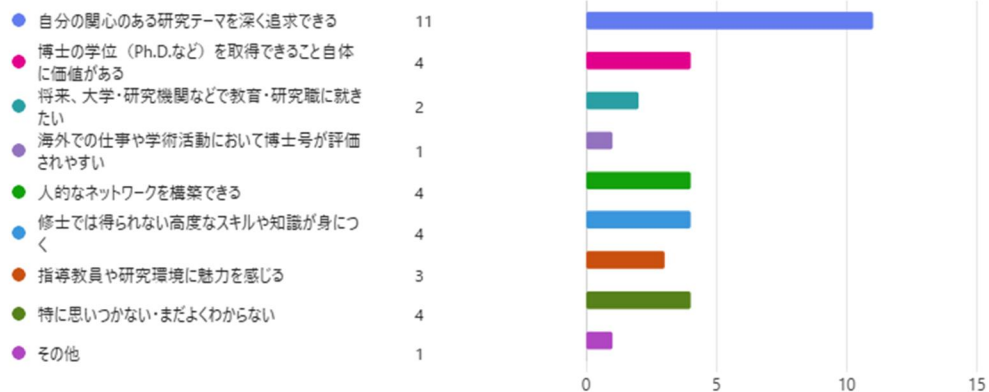
公認会計士：2名

(計17名のうち「興味・関心はない」を選択したのは3名、「その他」は0名)



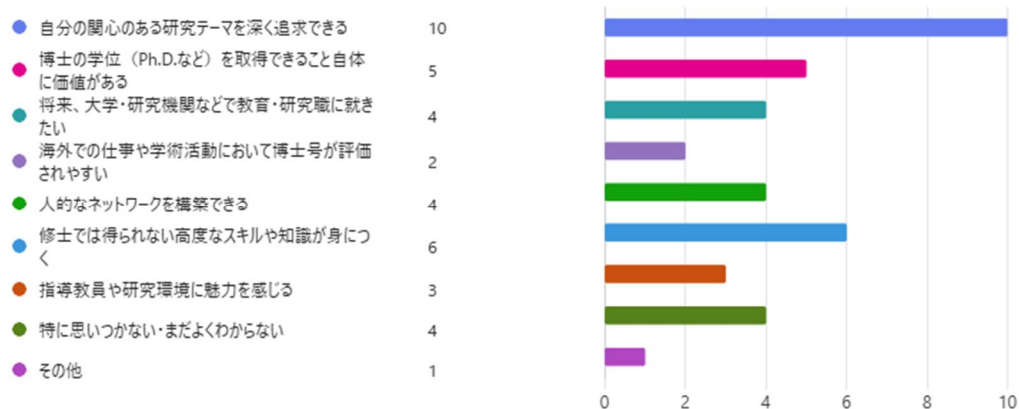
回答 3. あなたが博士課程に進学することの意義や魅力として重要だと考える点を選んでください。

(進学意向の有無に関わらずお答えください。該当する選択肢をすべて選んでください)



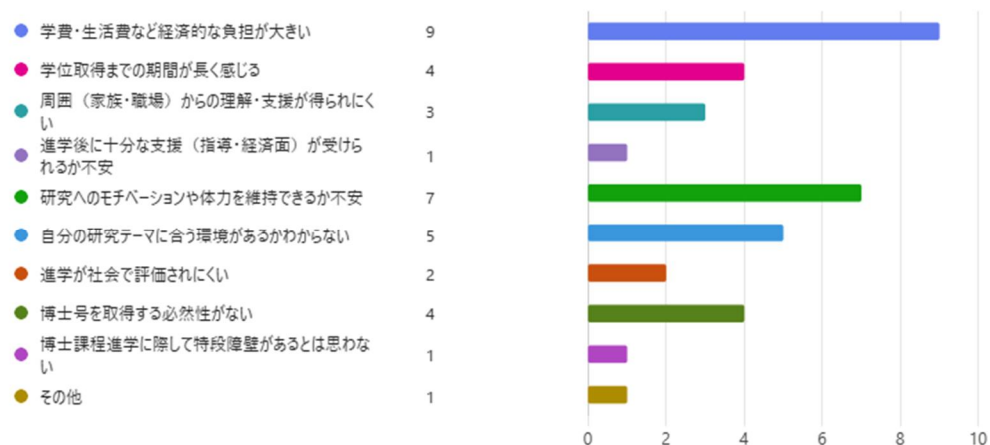
回答4. 3. について、特に、愛媛大学人文社会科学部博士課程に期待することを選択してください。

(進学意向の有無に関わらずお答えください。該当する選択肢をすべて選んでください)



回答5. あなたが博士課程への進学に際して障壁になると考える点を選んでください。

(進学意向の有無に関わらずお答えください。該当する選択肢をすべて選んでください)

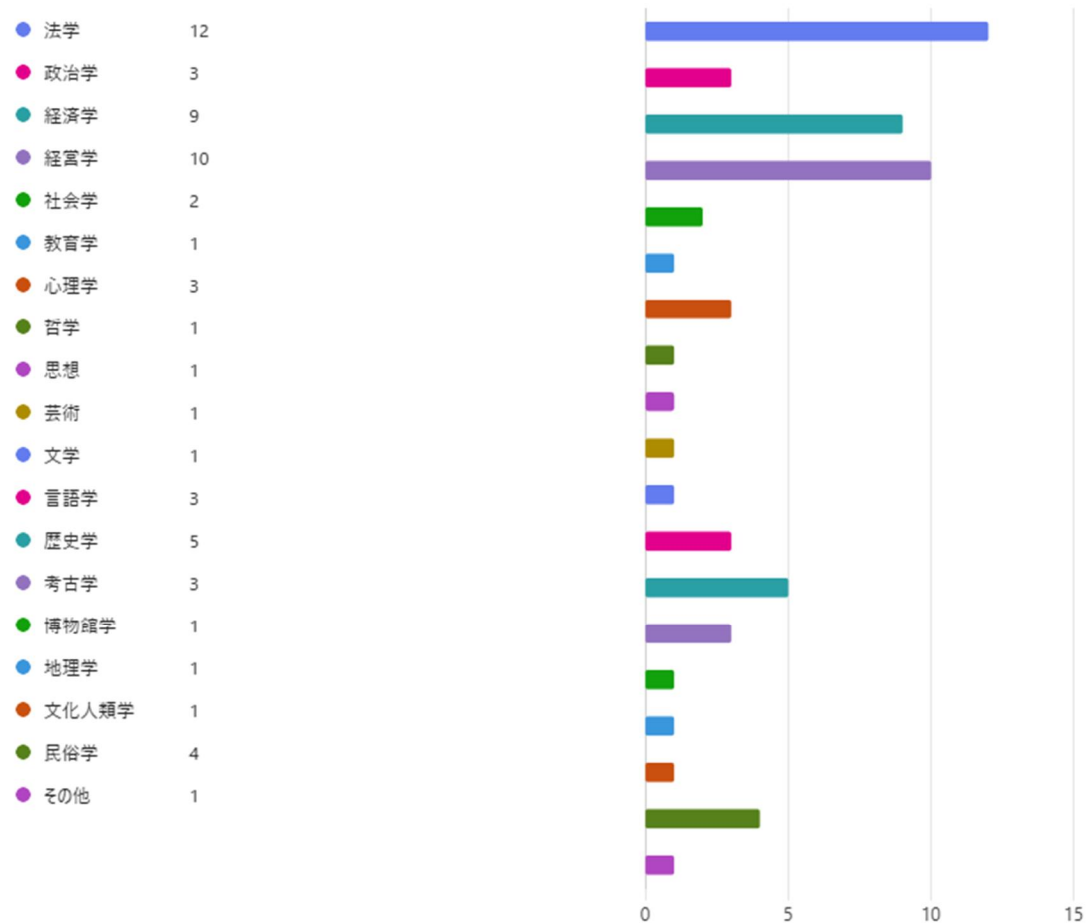


回答 6. 5. について、特に、愛媛大学人文社会科学研究科博士課程で学ぶことを妨げる要因を選択してください。

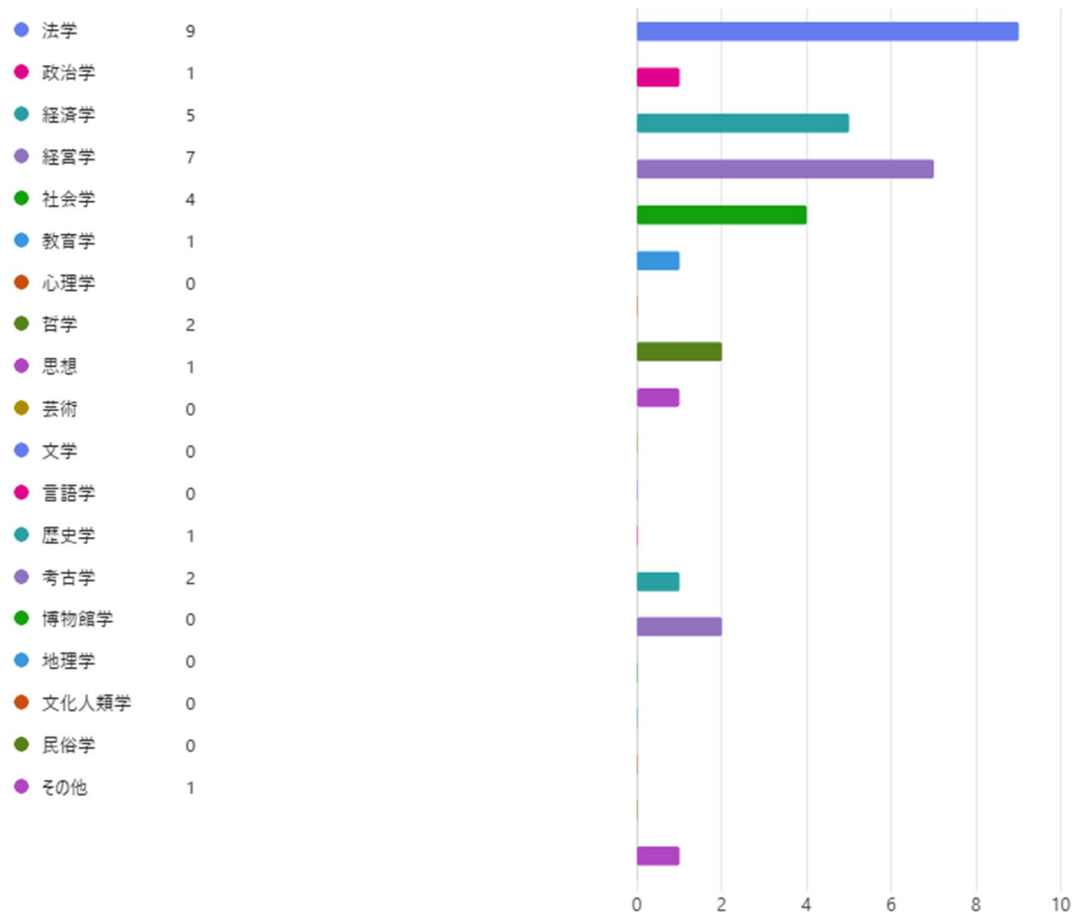
(進学意向の有無に関わらずお答えください。該当する選択肢をすべて選んでください)



回答7. あなたが現在学んでいる、または関心を持っている専門分野を教えてください。
(複数選択可)



回答 8. もし博士課程に進学したら、学びたい専門分野を教えてください。(複数選択可)



回答 9. その他、博士課程への進学について障壁や課題と感じていること等、ご意見があればぜひご教示ください。

「社会人等に対応した遠隔指導体制を整備し、柔軟な学修環境を提供」とあるが、具体的にどのような体制になっているのか明示してほしい。
仕事との時間的制約
指導していただきたかった教授が定年になってしまった
博士課程への進学について必要性を持っていない。
仕事との両立が困難であること
担当教官の質の維持、研究成果の発表の場の確保。
弁護士の場合は、多くの旧司法試験合格者及び予備試験合格者は学士であり博士課程（後期）への進学が困難。他方、新司法試験合格者は法務博士の称号はあるものの、修士と同様ではないことが課題である。
過去の先行研究等を収集把握することでもギリギリ足りる修士課程と異なり、博士課程においては何らかの新しい発見が必要と教えられた者です。そのため、いただいた企画プレゼンからは修士課程との違いがハッキリと見出せなかったように感じました。(企画プレゼンの情報量が多くて、私の中で咀嚼できてないだけかもしれませんが)
①勉強や研究に費やす時間の捻出 ②学費の工面 ③現職への影響（と反射的結果による研究への影響） ④進学後・課程修了後のメリット ①については、社会人生活を営むにおいて、仕事の時間は削ることが難しく、仮に削ることが出来たとしてもその影響で収入の低下を招いてしまう。なので必然的に睡眠時間やプライベート・家族との時間を犠牲にする必要が出てくる。「深く研究したい」と思うほど、勉強・研究に割く時間が多く必要となるため上記がより顕著になる。②については、物価高の昨今、よほど潤沢な貯蓄が無い限り家計への負担が大きく、本業の収入減の危険を抱えながら進学するのは厳しいと思われる。③については、多少なりとも仕事に影響は出るのは必然だが、逆にその影響を小さくしようとすればするほど学習・研究の方を最低限度（単位が修得できるギリギリ）で済まそうとせざるを得なくなるだろう。④については、仮に時間的

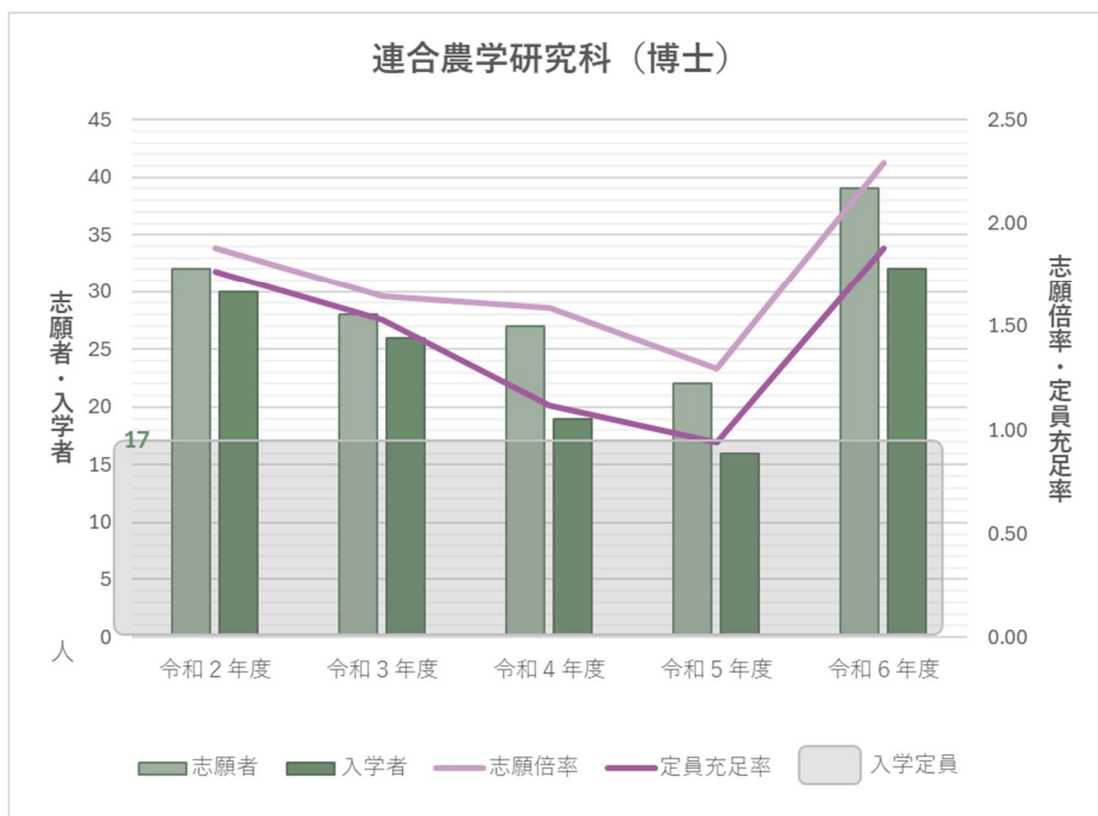
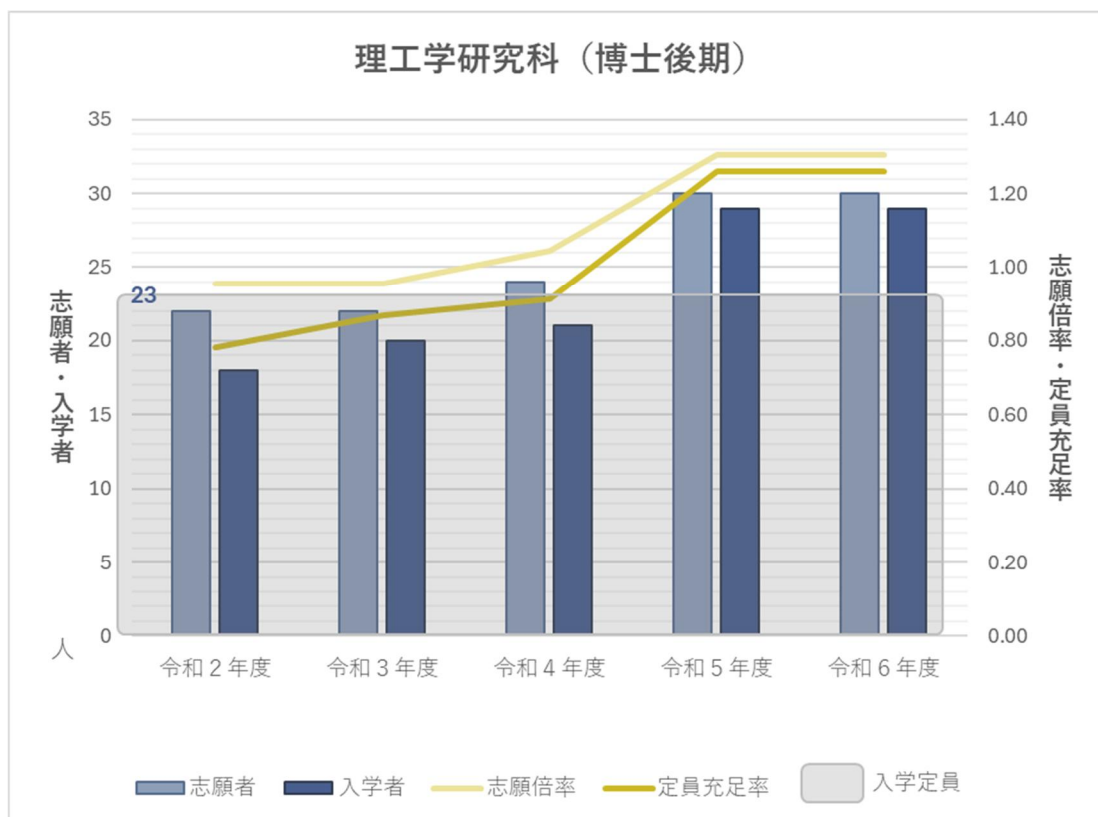
制限（勉強・研究時間に費やす時間ではなく、在学期間）、及び金銭的制限あるいは障害が無いと仮定するのであればメリットが多いのかもしれないが、そうだとすると以下の理由によりメリットに乏しく感じる・深く研究したい場合、その分野の第一人者と言える指導教員がいるのか？・広く横断的に研究したい場合にも同じで、周辺分野に精通している指導教員が揃っているのか？・同じことをしようとした場合、進学と言う方法を取らずとも目標を達成可能・逆に進学と言う方法を取らないと達成不可能なことは「学位の取得」のみ・アンケートにもあったが、学位を取得しても日本では評価されにくく、特に士業は学位の有無が収入に全くと言っていいほど直接に影響しない資料の「修了者の活躍イメージ」から関連性を見してみる。この中で士業から職種を変える予定がないのであればどのモデルも当てはまらず、自己研鑽を目的とした進学くらいしか理由が見当たらない。余りネガティブな意見ばかりだと良くないのでポジティブな面を考えてみる。士業、特に行政書士は行政と国民の架け橋になる職業である。モデルでいえば、例えば農地転用等では、個人から区（農業管理区域としての）、水利組合、土地改良区、市町、県といった地域社会の多様な単位との接点があり、よりよい地域振興・経済振興に資するための知識の習得（地域共創モデル）や制度の改革への一助（政策・実践知モデル）に繋がるのが可能かもしれない。外国人関連で言えば在留資格や帰化等の業務、また、建設業等の外国人人材雇用の面を考えてみると、地域や企業それぞれの実情に沿ったコーディネート役として活躍が可能かもしれない（地域比較発信モデル）し、起業・会社設立・各種許可取得の面（キャリア再構築モデル）でも同様だと思われる。しかし、いずれにしても「自分が」ではなく、「他人（申請者側・審査側）」がこれらモデルに当てはまる場合が多数だろう。コーディネーター的役割として、公的機関、各種企業、個人それぞれの立場等を理解してより良いサービス提供の糧とするという意味では十分に価値を見出せるかもしれない。その他資料タイトルに「～地方定着に資する～」とあるが、対象入学者に「国費留学生」とあるのが矛盾に思える。目的がとして地方定着に資することを重要視するのであれば、修了後帰国してしまう留学生は外すべきだし、高度な知識を持った人材の輩出を目的とするならば地域との共創や地方定着と言ったワードは外すべきではないか。

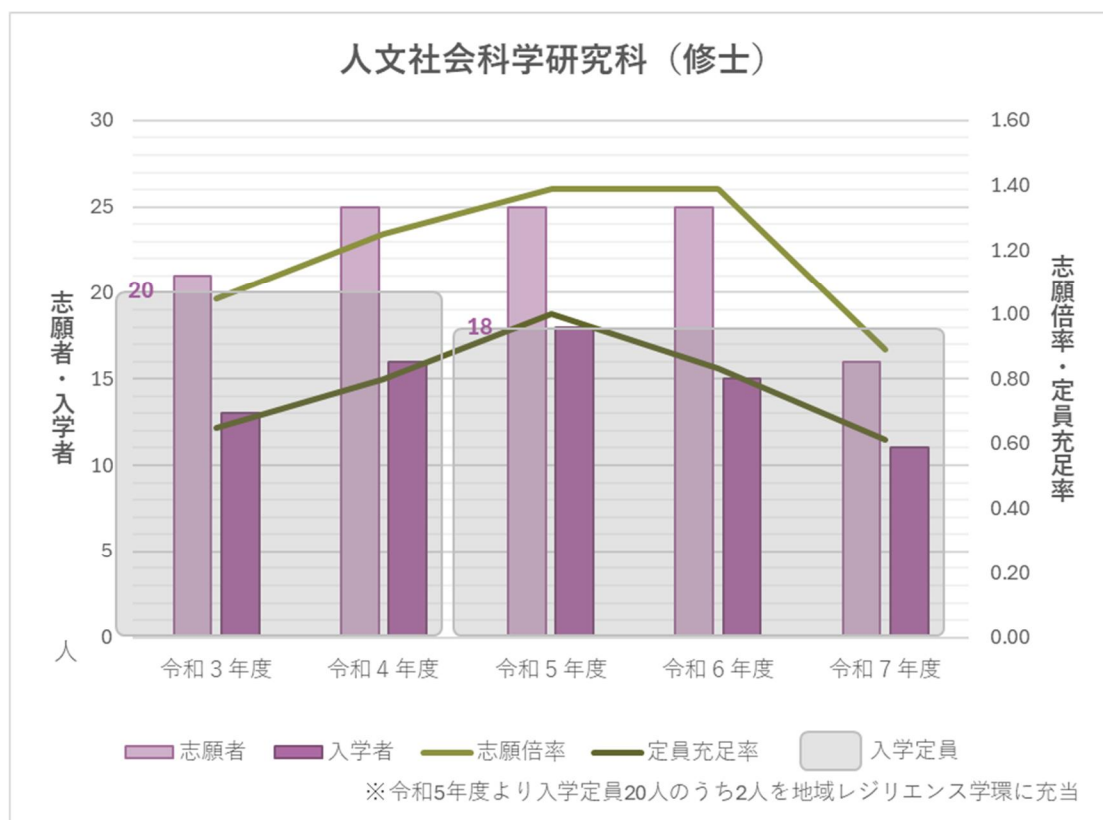
選考過程の理解、選考過程へのアクセシビリティ。注 調べればわかるだけかも

（資料４）四国圏内の文系又は文理融合の大学院博士後期課程の定員充足状況

四国地方 文系(・融合)博士後期課程一覧					修士／博士 前期課程	博士後期課程					
都道府県	設置	大学	研究科	専攻	博士学位名称	入学定員	入学定員	収容定員	R7.5 在籍者数	定員充足率	備考
愛媛県	私立	松山大学	経済学研究科	経済学専攻	経済学	5	2	6	0	0.00	
愛媛県	私立	松山大学	経営学研究科	経営学専攻	経営学	5	2	6	0	0.00	
愛媛県	私立	松山大学	社会学研究科	社会学専攻	社会学	3	2	6	2	0.33	
香川県	国立	香川大学	創発科学研究科	創発科学専攻	工学・危機管理学・学術	145	22	44	40	0.91	R6年度開設
香川県	私立	徳島文理大学	文学研究科	地域文化専攻	文学	6	3	9	0	0.00	
徳島県	国立	徳島大学	創成科学研究科	創成科学専攻	学術・工学・農学		47	141	93	0.66	
徳島県	私立	徳島文理大学	人間生活学研究科	人間生活学専攻	学術		3	9	2	0.22	
徳島県	私立	四国大学	経営情報学研究科	経営情報学専攻	経営情報学	15	3	9	1	0.11	
高知県	国立	高知大学	総合人間自然科学研究科	黒潮圏総合科学専攻	学術		6	18	18	1.00	自然科学・人文科学・社会科学・医学
高知県	公立	高知県立大学	人間生活学研究科	人間生活学専攻	生活科学・社会福祉学・学術	18	3	9	6	0.67	

(資料5) 本計画と関連する既設組織の定員充足状況





（資料6）直近6年間の社会共創学部 of 教員採用実績

	採用年月日	最終学位	職種（採用時）	公募	応募者数
1	令和8年4月1日	博士（工学）	教授	延長	15
2	令和7年4月1日	博士（体育科学）	助教（テニュア育成）	再	1回目13、再公募9
3	令和6年4月1日	博士（農学）	助教（テニュア育成）	再	1回目2、再公募10
4	令和6年4月1日	修士（経済学）	准教授		6
5	令和5年4月1日	博士（学術）	助教（テニュア育成）		17
6	令和5年4月1日	博士（地理学）	助教（テニュア育成）		13
7	令和5年4月1日	博士（農学）	助教（テニュア育成）		4
8	令和3年4月1日	修士（会計学）	助教（テニュア育成）	再々	1回目7、再公募4、再々公募4
9	令和3年4月1日	修士（農学）	助教（テニュア育成）		8
10	令和3年4月1日	Doctor of Philosophy	准教授		38
11	令和3年4月1日	博士（文学）	助教（テニュア育成）		25

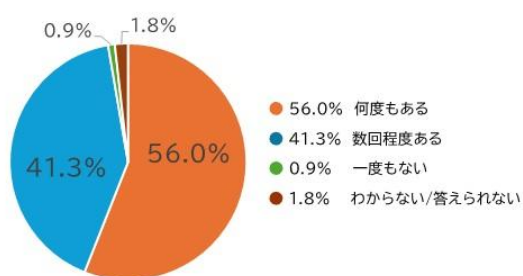
(資料7) 博士人材ファクトブックで示されている博士人材のパフォーマンスの高さ

博士人材を採用している企業は、パフォーマンス力と自社への価値貢献を高く評価しています。

パフォーマンスへの満足度

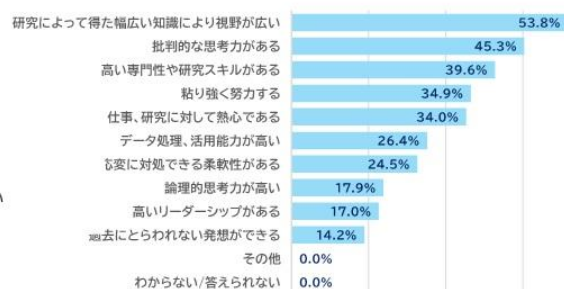
97.3%の人事担当者が、「博士人材のパフォーマンスの高さ」を実感しています。

博士学生が他の学部生や修士と比べて、
パフォーマンスが高いと実感した経験があるか



n=109

「博士学生が他の学部生や修士と比べて、
パフォーマンスが高いと実感した点
(左記「何度もある」「数回程度ある」と回答した方が回答)



n=106

出所:株式会社アカリク「博士学生のビジネスでの活躍に関する実態調査」(令和5年)より三菱総合研究所作成

愛媛大学大学院 人文社会科学研究科 博士課程の新設構想に関するニーズ調査アンケート

人事・人材育成担当の方へ

愛媛大学では現在、人文社会科学分野においてさらに高度な人材を輩出し、地域の知的人材基盤を支えるため、人文社会科学研究科博士課程の新設を検討しています。(詳細は、別紙をご参照ください)

この構想を現実的かつ実効性のあるものとして組み立てていくうえで、人材育成や雇用創出を通じて地域社会と関わっておられる皆さまから率直なご意見を伺いたく、アンケートにご協力をお願いいたします。

このアンケートは、本構想を具体的に検討するための参考資料としてのみ使用し、それ以外の目的には一切使いません。また、回答内容によって貴社・貴団体に不利益が生じるようなことは一切ありませんので、ありのままをお答えください。

なお、本構想は検討中につき変更となる場合があることをご了承ください。

(アンケートに関するお問合せ先)

愛媛大学総務部評価IR課IR企画チーム

E-mail : mokuhyo@stu.ehime-u.ac.jp

TEL : 089-927-8292

I 貴社・貴団体の採用活動の状況についてお尋ねします。

問1 貴社・貴団体の過去5年間の採用状況をお選びください。(各、単一選択) *

	1 毎年必ず採用 している	2 ほぼ毎年採用 している	3 採用する年も ある	4 採用していな い
A.文系の学士	☐	☐	☐	☐
B.文系の修士	☐	☐	☐	☐
C.文系の博士	☐	☐	☐	☐
D.理系の学士	☐	☐	☐	☐
E.理系の修士	☐	☐	☐	☐
F.理系の博士	☐	☐	☐	☐
G.文理融合型の 学士	☐	☐	☐	☐
H.文理融合型の 修士	☐	☐	☐	☐
I.文理融合型の 博士	☐	☐	☐	☐

問2 問1のC.文系の博士で、選択肢1～3（採用したことがある）を選択した場合にお尋ねします。

学士、修士等と比較して、博士課程修了者に特に感じた違いがあれば教えてください。（複数選択可）

- ☐ 1. 専門性の深さ
- ☐ 2. 課題設定力・探究力
- ☐ 3. 文章力・資料作成能力
- ☐ 4. プレゼン・対話などコミュニケーション力
- ☐ 5. 社会課題への関心の高さ
- ☐ 6. 実務経験の不足
- ☐ 7. 組織文化への適応力
- ☐ 8. 自社業務とのマッチング
- ☐ わからない
- ☐ その他: _____

問3 問1のC.文系の博士で、選択肢4（採用していない）を選択した場合にお尋ねします。

文系の博士課程修了者の採用実績がない理由をお教えてください。（複数選択可）

- ☐ 1. 文系博士課程レベルの専門性を求めているから
- ☐ 2. 文系の博士課程修了者からの応募がないから
- ☐ 3. 採用面接者（人事担当者）に文系博士課程修了者がいないため、博士課程修了者の能力評価ができないから
- ☐ わからない
- ☐ その他: _____

問4 貴社・貴団体に在籍する学位取得者の人数をご記入ください。
(人数まで把握が難しい場合は「若干名」や「不明」とご記入ください。)

A. 文系 修士号 取得者数 (〇名) 【記述式】

回答を入力

B. 文系 博士号 取得者数 (〇名) 【記述式】

回答を入力

C. 理系 修士号 取得者数 (〇名) 【記述式】

回答を入力

D. 理系 博士号 取得者数 (〇名) 【記述式】

回答を入力

E. 文理融合型 修士号 取得者数 (〇名) 【記述式】

回答を入力

F. 文理融合型 博士号 取得者数（〇名）【記述式】

回答を入力

問5 大学院修了者の採用に関して、今後採用数を増やしていく意向はあります*
か。（複数選択可）

- ☐ 1. 文系の博士課程修了者の採用を増やしていきたい
- ☐ 2. 文系の修士課程修了者の採用を増やしていきたい
- ☐ 3. 理系の博士課程修了者の採用を増やしていきたい
- ☐ 4. 理系の修士課程修了者の採用を増やしていきたい
- ☐ 5. 文理融合型の博士課程修了者の採用を増やしていきたい
- ☐ 6. 文理融合型の修士課程修了者の採用を増やしていきたい
- ☐ 7. 優秀であれば、博士課程修了者・修士課程修了者を問わず採用数を増やしていきたい
- ☐ 8. 大学院修了者の採用を増やす考えはない
- ☐ わからない
- ☐ その他: _____

II ここからは、新設を検討している愛媛大学人文社会科学研究科博士課程について貴社・貴団体のご意見をお尋ねします。

【お願い】 構想の詳細は別紙にまとめています。別紙をご覧になりながらご回答ください。

問6 貴社・貴団体は、人文社会科学研究科博士課程にどの程度興味・関心がありますか。選択肢からひとつ選んでください。(単一選択) *

- ☐ 1. 非常に興味・関心がある
- ☐ 2. 興味・関心がある
- ☐ 3. ある程度の興味・関心がある
- ☐ 4. 興味・関心がない
- ☐ 5. わからない

問7 修了者が身に付ける知識・技能等について、特に高い水準で期待すること ★
があれば、その内容をお教えてください。(複数選択可)

- ☐ 1. 高度な専門的知識
- ☐ 2. 高度な調査・研究能力
- ☐ 3. 専門以外の分野の幅広い知識
- ☐ 4. 物事を俯瞰し本質を見抜く力
- ☐ 5. 独創的な能力
- ☐ 6. 自ら課題を発見し解決に挑む力
- ☐ 7. 論理的思考力
- ☐ 8. 国際感覚・語学力
- ☐ 9. プレゼンテーション能力
- ☐ 10. 他者と協働する力
- ☐ 11. ストレス耐性
- ☐ 12. 文章を書く力
- ☐ 13. プロジェクトやタスクのマネジメント力
- ☐ 特にない
- ☐ その他: _____

問8 貴社・貴団体の課題解決との関連も含め、特に重点を置くことを期待する*
専門分野があればお教えてください。(複数選択可)

- ☐ 1. 法学
- ☐ 2. 政治学
- ☐ 3. 経済学
- ☐ 4. 経営学
- ☐ 5. 社会学
- ☐ 6. 教育学
- ☐ 7. 心理学
- ☐ 8. 哲学
- ☐ 9. 思想
- ☐ 10. 芸術
- ☐ 11. 文学
- ☐ 12. 言語学
- ☐ 13. 歴史学
- ☐ 14. 考古学
- ☐ 15. 博物館学
- ☐ 16. 地理学
- ☐ 17. 文化人類学
- ☐ 18. 民俗学
- ☐ 特にない
- ☐ その他: _____

問9 以下のうち、人文社会科学研究科博士課程が新設された場合に実施・充実^{*}したほうがよいと思われることがあれば、その内容についてお教えてください。

(複数選択可)

- ☐ 1. 企業・団体などと協働したカリキュラムの構築
- ☐ 2. 専門ばかりではない幅広い分野の知識等を身につけられるカリキュラム
- ☐ 3. 海外留学の機会の提供
- ☐ 4. 中長期インターンシップの仲介
- ☐ 5. 質を重視した厳正な学位審査
- ☐ 6. 企業など学外者からの高度で実践的な教育を受ける機会
- ☐ 7. チームワークを重視したワークショップやプロジェクト形式による授業や課題
- ☐ 8. 英語による授業
- ☐ 9. 企業などとの共同授業・研究
- ☐ 10. 文献調査など個人で突き詰めて行う課題や研究
- ☐ 特にない
- ☐ その他: _____

問10 人文社会科学研究科博士課程で学んだ大学院生は、貴社・貴団体における^{*}選考・採用の対象になりますか。(単一選択)

- ☐ 1. 確実に選考・採用の対象になる
- ☐ 2. 有力な選考・採用の対象となる
- ☐ 3. 選考・採用の対象になる
- ☐ 4. 選考・採用の対象にならない
- ☐ その他: _____

問11 貴社・貴団体は人材育成の一環として従業員・職員が在職しながら、人文^{*}社会科学科博士課程で学ぶことについてどう思いますか。（単一選択）

- ☐ 1. 人材育成の方針・計画に沿って、積極的に従業員・職員に薦めたい
- ☐ 2. 進学する従業員・職員を直接・間接的に支援する
- ☐ 3. 進学する従業員・職員の意思を尊重し一定の配慮はするが、組織としては直接関わらない
- ☐ 4. あまり従業員・職員に薦めない

問11で「4. あまり従業員・職員に薦めない」を選んだ場合は、その理由をご回答ください。（複数選択可）

- ☐ 本業に支障をきたすため
- ☐ 教育内容が現在の業務に生かせないため
- ☐ その他: _____

問12 その他、人文社会科学科博士課程修了者の採用について障壁と感じていることや、社会人の学び直し（リカレント教育）等で人文社会科学科博士課程を選択することの課題と感じていること等、ご意見があればぜひご教示ください。

回答を入力

III ご担当者様についてお尋ねします。

※今後、博士課程設置構想に関するご報告やご相談の際に、必要に応じてご連絡させていただきます場合があります。

※ご記入いただいた情報は、本アンケートの目的以外には使用いたしません。

ご所属

回答を入力

ご連絡先（メールアドレス等）

回答を入力

高度な専門知・適格な実行力を兼ね備えた文系修士・博士人材育成と 地方定着に資する 人文社会科学研究科博士後期課程の設置

CONFIDENTIAL
(2026.1.29時点の内容のため、変更の可能性があります)

社会的背景

- 急速な人口減少・高齢化により、地域の知的人材基盤が縮小する一方、課題は複雑化・多層化している。その解決には多様な分野を統合した総合的なアプローチが不可欠である。
- 広い視野で歴史・文化・地域性といった多様な価値を理解し、理論・実践的研究を通して新たに深くかつ融合的に捉え直して発信する必要がある。
- 解決が容易でない複合的な課題に対し、限定的な専門性に加えて多様な観点からの知識や理解を結び合わせ、「意味的価値」を創出することが求められている。
- 異文化を含む多様な背景を持つ他者と協働し開かれた視野で共創できる人材が求められている。

対象とする入学者

- アカデミアのキャリアを目指す修士課程修了生。
- 地方自治体等において実践的研究スキルで社会的な課題解決のマネジメントに取り組もうとしている者。
- 高度専門人材として活躍することを目指し、博士前期課程から博士後期課程まで一貫して研究を行いたいと考える国費留学生等。

組織構成

人文社会科学研究科 博士後期課程

人文社会科学専攻

入学定員：5人

学位：博士（学術）分野：文学関係・法学関係・経済学関係

横断型研究指導体制の確立

- コアとなる専門分野を中心としつつ、隣接・関連分野からなる研究手法の横断的教育を含む学位プログラムの構築
- 研究を軸に、学生の志向や関心に応じて、実践的な学びも柔軟に取り入れられる教育設計

実践機会の創出と多様な学修環境の提供

- 文化・地域創生に関わる学内各研究センターとの連携、地域社会や学内外機関との連携を通じて、実践的な活動機会を確保
- 必要に応じて、アドバンストソーシャルマネジメント学環の知見やツールを補完的に活用
- 社会人等に対応した遠隔指導体制を整備し、柔軟な学修環境を提供

人文社会科学研究科 博士前期課程 ← 修士課程

法文学専攻

入学定員 12人
修士（法学）、修士（人文学）
（法学関係、文学関係）

法文学部

産業システム創成専攻

入学定員 8人
修士（経済学）、修士（学術）
（経済学関係）

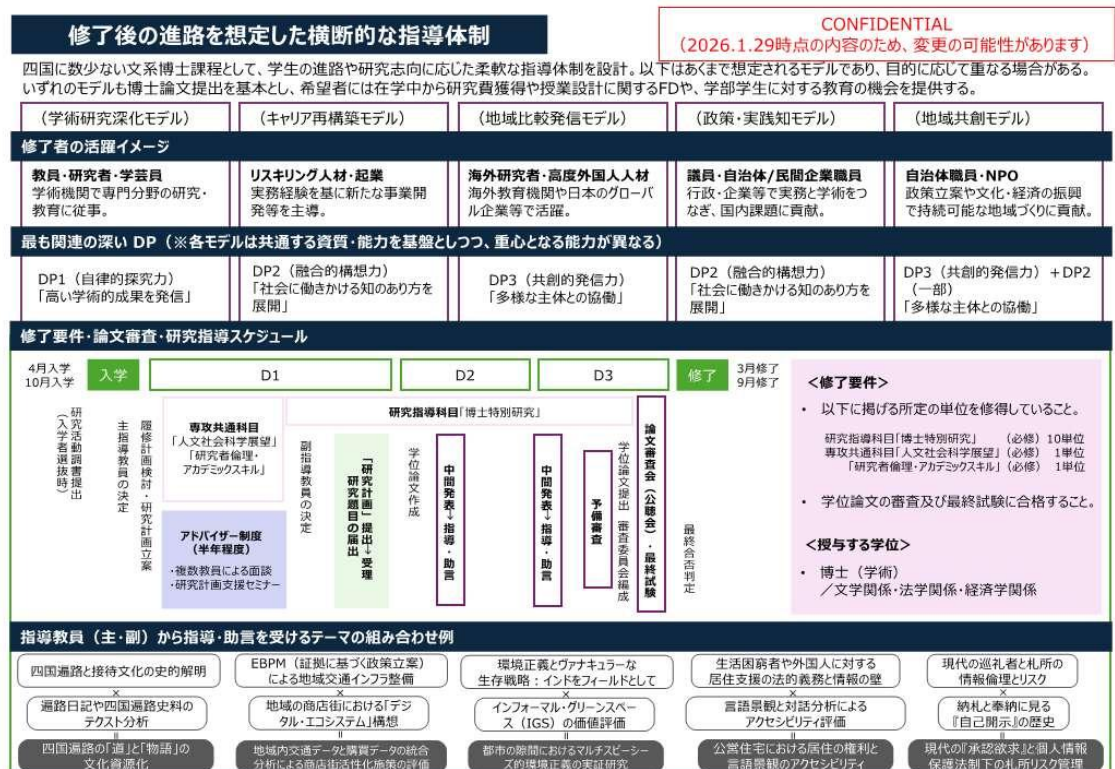
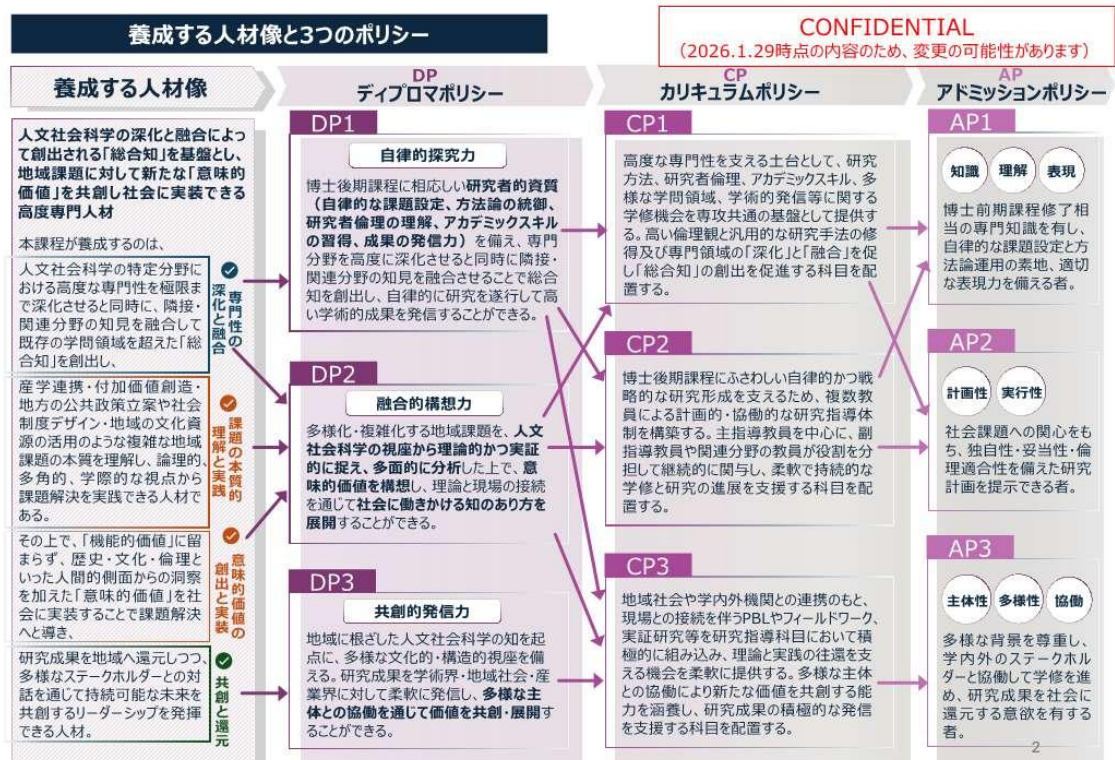
社会共創学部

養成する人材像

- 人文社会科学の特定分野における高度な専門性を極限まで「深化」させると同時に、隣接・関連分野の知見を「融合」させることで、既存の学問領域を超えた「総合知」を創出できる人材。
- 産学連携・付加価値創造・地方の公共政策立案や社会制度デザイン・地域の文化資源の活用のような複雑な地域課題の本質を理解し、論理的、多角的、学際的な視点から課題解決を実践できる人材。
- 「意味的価値」を社会に実装することで課題を解決へと導き、多様な主体との対話を通して新しい価値を共創し、地域へ還元できる人材

活躍の場

- 大学・研究機関等で、研究者や教育職として専門知を深化させ、次世代の知的基盤を担う。（学術研究の深化）
- 自治体・企業・NPO等で、政策立案や地域振興を主導し、社会課題の解決に実践的に貢献する。（理論と現場の接続）
- 国際共同研究・文化発信分野で、地域に根ざした知を国際的に展開し、多様なステークホルダーと協働する。（共創的発信） 1

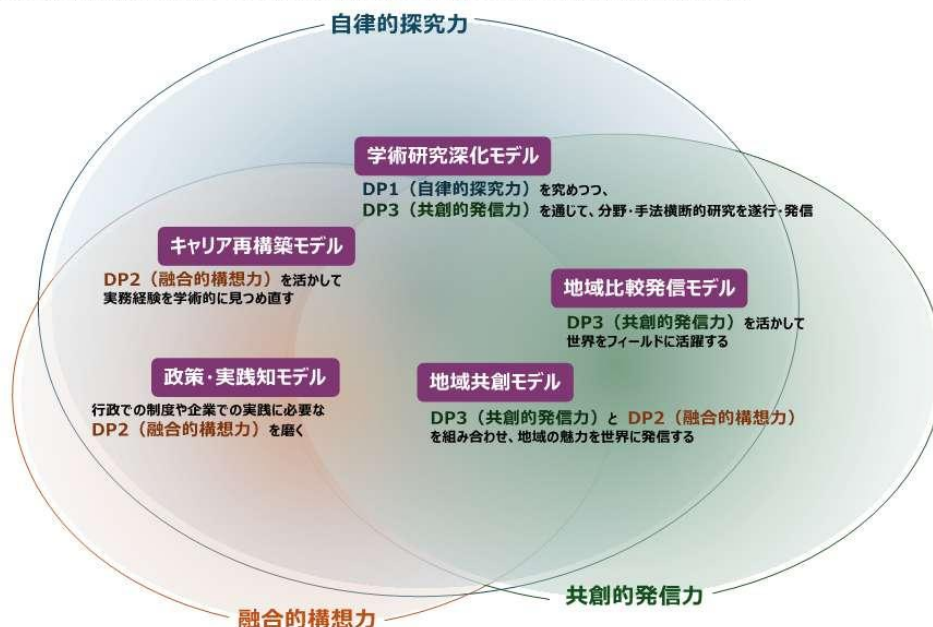


5つのモデルとDPの関係性

各教育モデルは、本課程が養成を目指す人材に共通して求められる能力—自律的探究力、融合的構想力、共創的発信力—を基盤として設計されている。特に、博士後期課程に求められる「自律的探究力」を前提としたうえで、研究の志向や実践の重心に応じて、これらの能力の発揮の重点が異なる。

CONFIDENTIAL

(2026.1.29時点の内容のため、変更の可能性があります)



4

主指導教員となる予定の教員（職位・保有学位・所属）

CONFIDENTIAL

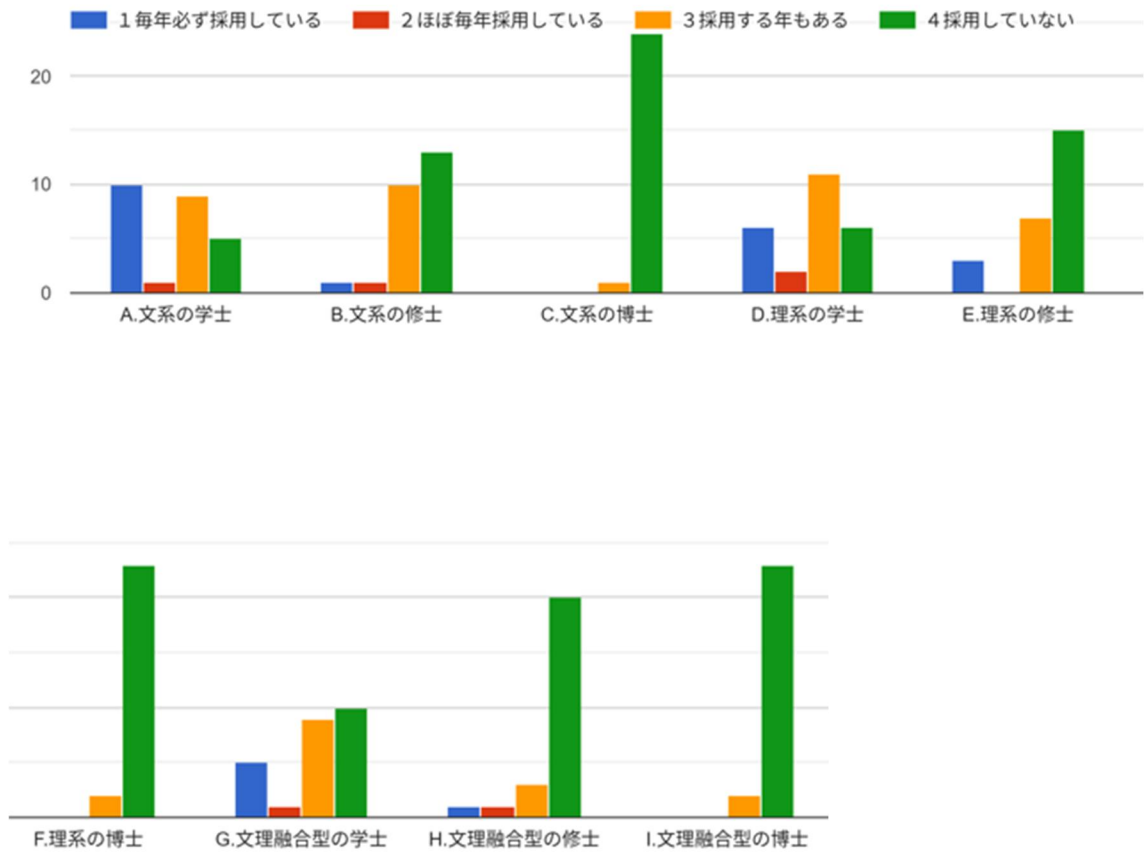
(2026.1.29時点の内容のため、変更の可能性があります)

教授	胡 光	文学修士	人文社会科学研究科 法文学専攻（人文学コース）
教授	中根 隆行	博士（文学）	人文社会科学研究科 法文学専攻（人文学コース）
教授	今泉 志奈子	博士（言語文化学）	人文社会科学研究科 法文学専攻（人文学コース）
教授	福井 秀樹	修士（法学）	人文社会科学研究科 法文学専攻（法学コース）
教授	鈴木 静	修士（地域政策）	人文社会科学研究科 法文学専攻（法学コース）
教授	石坂 晋哉	博士（地域研究）	人文社会科学研究科 法文学専攻（法学コース）
教授	岡本 隆	博士（経済学）	人文社会科学研究科 産業システム創成専攻（経済・経営コース）
教授	折戸 洋子	博士（商学）	人文社会科学研究科 産業システム創成専攻（経済・経営コース）
准教授	RUPPRECHT CHRISTOPH DAVID DIETRICH	Ph. D.	人文社会科学研究科 産業システム創成専攻（環境・資源マネジメントコース）

5

回答 1. 貴社・貴団体の過去 5 年間で採用状況をお選びください。(各、単一選択)

問 1 貴社・貴団体の過去5年間で採用状況をお選びください。(各、単一選択)



回答 2. 問 1 の C. 文系の博士 で、選択肢 1～3（採用したことがある）を選択した場合にお尋ねします。

学士、修士等と比較して、博士課程修了者に特に感じた違いがあれば教えてください。(複数選択可)

専門性の深さ	1 件
わからない	1 件

回答3. 問1の C. 文系の博士 で、選択肢4（採用していない）を選択した場合にお尋ねします。

文系の博士課程修了者の採用実績がない理由をお教えてください。（複数選択可）

文系の博士課程修了者からの応募がないから	19 件
文系博士課程レベルの専門性を求めているから	4 件
わからない	1 件

（その他）

- ・応募希望者がいなかった
- ・県立学校なので採用する機会がないです。
- ・職種上、中途採用が多く、新卒で面接に来られる方がいらっしゃらないため
- ・学歴不問で募集しておりますので、博士課程修了者の方からの応募があれば採用に至る可能性はあります。

回答4. 貴社・貴団体に在籍する学位取得者の人数をご記入ください。

（人数まで把握が難しい場合は「若干名」や「不明」とご記入ください。）

A. 文系 修士号 取得者数（○名）【記述式】

0 名、不明又は空欄	15 件
若干名	2 件
1 名	2 件
2 名	1 件
4 名	1 件
6 名	1 件
約 10 名	1 件
約 100 名	1 件
多数	1 件

B. 文系 博士号 取得者数（○名）【記述式】

0 名、不明又は空欄	23 件
1 名	1 件
かなり少ないと思います	1 件

C. 理系 修士号 取得者数（〇名）【記述式】

0名、不明又は空欄	17 件
1 名	1 件
3 名	1 件
7 名	1 件
9 名	1 件
29 名	1 件
約 400 名	1 件
約 450 名	1 件
多少はいます	1 件

D. 理系 博士号 取得者数（〇名）【記述式】

0名、不明又は空欄	21 件
若干名	2 件
1 名	1 件
かなり少ないと思います	1 件

E. 文理融合型 修士号 取得者数（〇名）【記述式】

0名、不明又は空欄	23 件
若干名	1 件
社会競争学部から多く入社しています (原文ママ)	1 件

F. 文理融合型 博士号 取得者数（〇名）【記述式】

0名、不明又は空欄	24 件
いないと思います	1 件

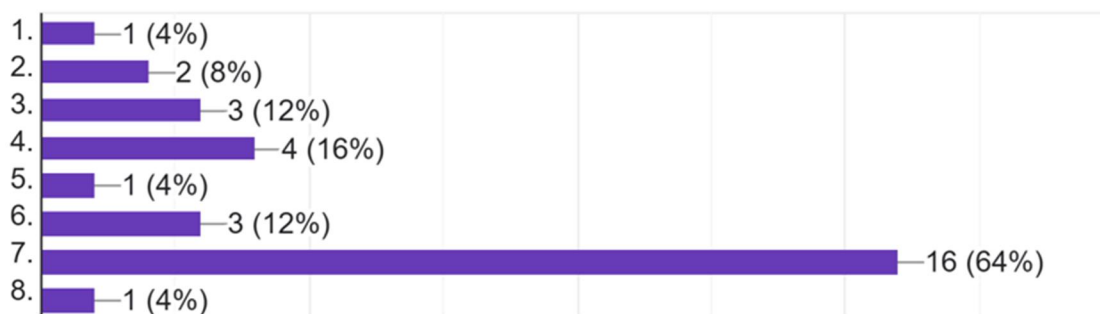
回答5. 大学院修了者の採用に関して、今後採用数を増やしていく意向はありますか。(複数選択可)

選択肢

1. 文系の博士課程修了者の採用を増やしていきたい
2. 文系の修士課程修了者の採用を増やしていきたい
3. 理系の博士課程修了者の採用を増やしていきたい
4. 理系の修士課程修了者の採用を増やしていきたい
5. 文理融合型の博士課程修了者の採用を増やしていきたい
6. 文理融合型の修士課程修了者の採用を増やしていきたい
7. 優秀であれば、博士課程修了者・修士課程修了者を問わず採用数を増やしていきたい
8. 大学院修了者の採用を増やす考えはない

わからない

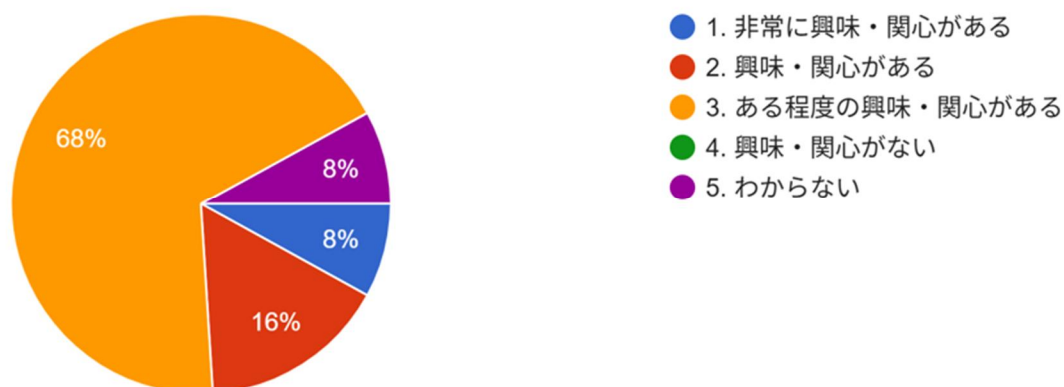
その他:



(その他)

- ・県立学校なので採用する機会はありません。
- ・新卒採用は実施しておらず、欠員が出たら採用を行うという形をとっているため、増やすという状況にはなりません。
- ・問3と同答です
- ・採用条件において大学院修了を要件としていません。また、毎年採用があるわけではありません。

回答 6. 貴社・貴団体は、人文社会科学研究科博士課程にどの程度興味・関心がありますか。
選択肢からひとつ選んでください。(単一選択)



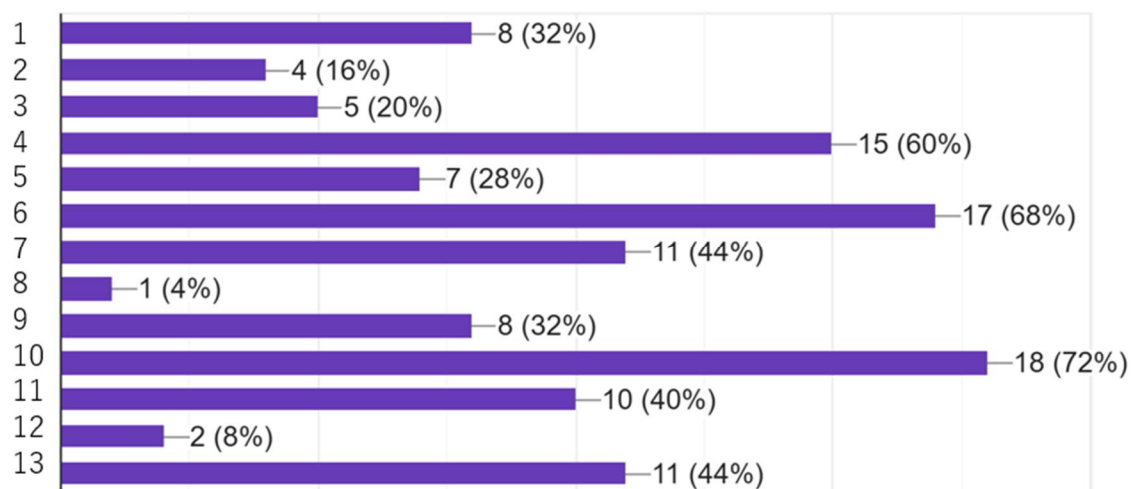
回答 7. 修了者が身に付ける知識・技能等について、特に高い水準で期待することがあれば、その内容をお教えてください。(複数選択可)

選択肢

1. 高度な専門的知識
2. 高度な調査・研究能力
3. 専門以外の分野の幅広い知識
4. 物事を俯瞰し本質を見抜く力
5. 独創的な能力
6. 自ら課題を発見し解決に挑む力
7. 論理的思考力
8. 国際感覚・語学力
9. プレゼンテーション能力
10. 他者と協働する力
11. ストレス耐性
12. 文章を書く力
13. プロジェクトやタスクのマネジメント力

特にない

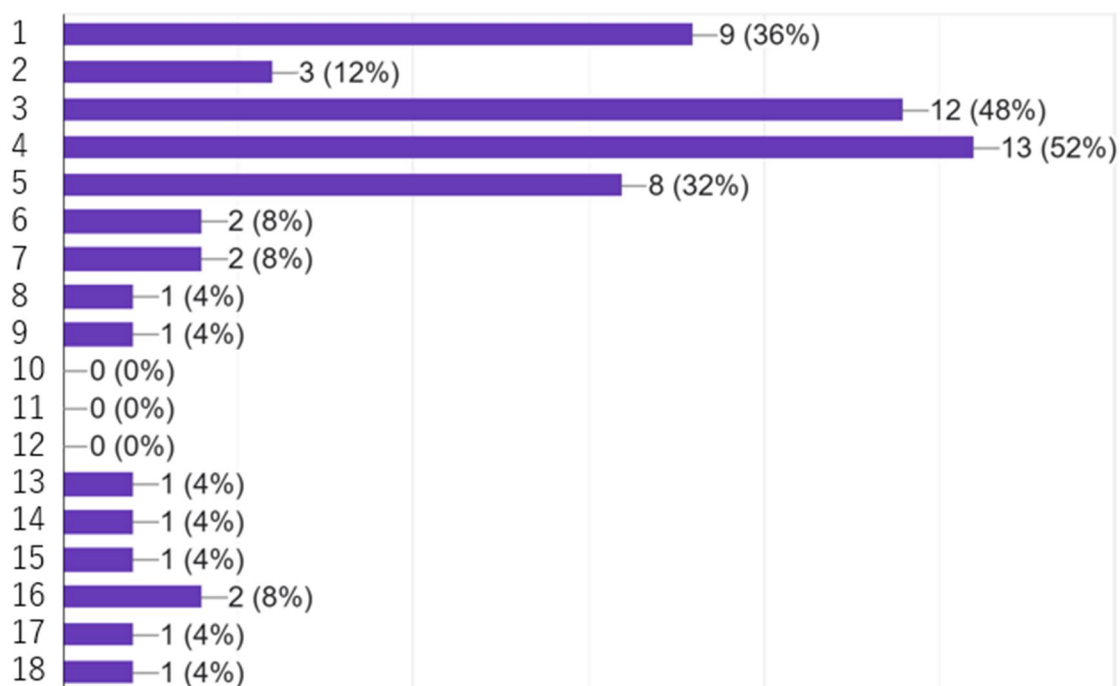
その他:



回答 8. 貴社・貴団体の課題解決との関連も含め、特に重点を置くことを期待する専門分野があれば教えてください。（複数選択可）

選択肢

1. 法学
 2. 政治学
 3. 経済学
 4. 経営学
 5. 社会学
 6. 教育学
 7. 心理学
 8. 哲学
 9. 思想
 10. 芸術
 11. 文学
 12. 言語学
 13. 歴史学
 14. 考古学
 15. 博物館学
 16. 地理学
 17. 文化人類学
 18. 民俗学
- 特にない
- その他:



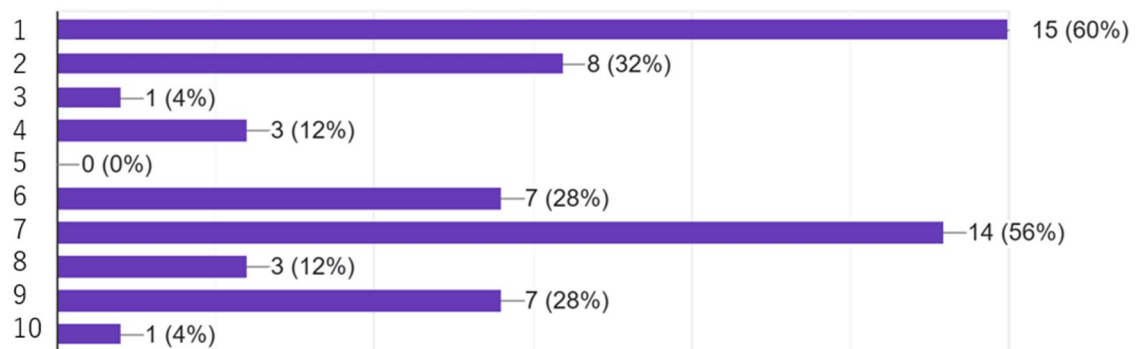
回答9. 以下のうち、人文社会科学研究科博士課程が新設された場合に実施・充実したほうがよいと思われることがあれば、その内容についてお教えてください。(複数選択可)

選択肢

1. 企業・団体などと協働したカリキュラムの構築
2. 専門ばかりではない幅広い分野の知識等を身につけられるカリキュラム
3. 海外留学の機会の提供
4. 中長期インターンシップの仲介
5. 質を重視した厳正な学位審査
6. 企業など学外者からの高度で実践的な教育を受ける機会
7. チームワークを重視したワークショップやプロジェクト形式による授業や課題
8. 英語による授業
9. 企業などとの共同授業・研究
10. 文献調査など個人で突き詰めて行う課題や研究

特にない

その他:



(その他)

・社会で活かすことが能力を身につける (原文ママ)

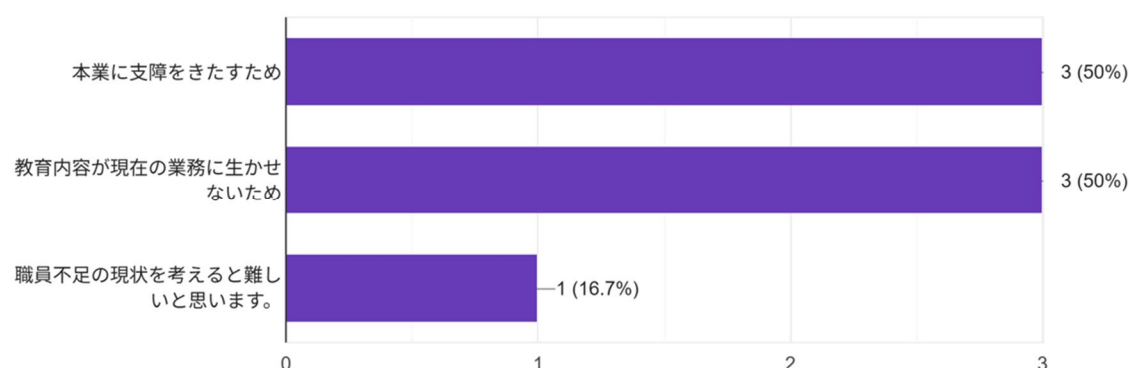
回答 10. 人文社会科学研究科博士課程で学んだ大学院生は、貴社・貴団体における選考・採用の対象になりますか。 (単一選択)



回答 11. 貴社・貴団体は人材育成の一環として従業員・職員が在職しながら、人文社会科学研究科博士課程で学ぶことについてどう思いますか。 (単一選択)



※「4. あまり従業員・職員に薦めない」を選んだ場合は、その理由をご回答ください。（複数選択可）



回答 1 2. その他、人文社会科学科博士課程修了者の採用について障壁と感じていることや、社会人の学び直し（リカレント教育）等で人文社会科学科博士課程を選択することの課題と感じていること等、ご意見があればぜひご教示ください。

・特にありません。

・会社の業種や規模によって回答が違いますが、専門分野に特化して深く研究されている人材が活躍できる職種や業務が何なのかを、自己アピールしていただければ、採用する場合にイメージが湧きやすいのではないのでしょうか。人文社会系でも、その分野で専門性を生かした社会課題解決型のビジネスに取り組まれている企業、または資格取得が必要な士業、また今後益々重要視される AI を活用した経営を目指しているような企業があれば、そのような人材は需要があるのではないのでしょうか。

・博士号を取得した場合に、大学等で活躍する場を提供できるかがポイント。文系博士の場合、企業にのみ活躍の場を依存することは難しい。

・リスクリングの範疇であれば会社として許容できるが、学びなおしを許容できるほどの余裕は正直なところありません。

・現時点では新卒の学士と修士・博士を報酬面等で差別化できる環境が整備できていないが、研究課程の中で共同で活動を行っていけば、進学することによる経済面のハンデを補えるポストも提供できると思われる。

・業務に関わる資格の取得は推奨しているが、大学院での学びは範疇からは外れると考えており、企業として従業員の学びを後押しするのは難しい。

・もし障壁や社会人の学び直しで選ばれにくさがあるとすれば、「人文社会科学」と聞いて、ビジネスにおいて、どの分野の何の力が身に就くのがイメージしにくい方が多いのではないかと思います。個人的には、愛媛県内でこの分野の深い学びができる機関ができることは、とても意義があることだと考えます。

・そもそも応募がないため博士課程修了者の採用について考える機会が少ない。博士課程への学びなおしは重要であるが、博士課程までの知識を求める機会は今のところ少ないが、より専門的な分野においては必要かもしれない。

・博士課程修了した者に提供する職制上のステージを差別化できない

(資料9) 株式会社大和総研のレポートで示されている社外取締役の需要

図表5 社外取締役比率を高めるために増やす必要がある社外取締役数

プライム市場上場会社：3分の1以上 スタンダード市場上場会社：2名以上				プライム市場上場会社：過半数 スタンダード市場上場会社：3分の1以上			
	プライム 市場上場会社	スタンダード 市場上場会社	計		プライム 市場上場会社	スタンダード 市場上場会社	計
監査役会 設置会社	22人	170人	192人	監査役会 設置会社	1,859人	602人	2,461人
監査等委員会 設置会社	16人	0人	16人	監査等委員会 設置会社	1,531人	215人	1,746人
指名委員会等 設置会社	0人	0人	0人	指名委員会等 設置会社	18人	0人	18人
計	38人	170人	208人	計	3,408人	817人	4,225人

(出所) QUICK、各社有価証券報告書より大和総研作成